



# 富山大学学報

## 目次

年頭所感	梅原真隆
関係法令	法律, 政令, 省令, 府令, 規則, 告示, 官庁報告, 通達
文部省共済組合貸付規程の一部改正	
学内規程	
人事異動	
総合情報	
昭和36年度学生募集要項	
参議院文教委員の薬学部視察	
衆議院文教委員会の調査	
高等学校長と大学側との連絡協議会	
文部省委嘱専門講座開設	
民主教育協会教養講座の開催	
科学教育研究室の閉室	
永年勤続者の表彰	
梅原学長の受賞	
鈴木米三助手理学博士に	
植村教授経済学博士に	
四十万事務員の逝去	
工学部工業化学実験研究室第2期工事	
附属中学校の生徒ホール竣工	
レクリエーション	
全国公務員レクリエーション共同事業	
部局情報	
文理学部	
富山県下高等学校英語弁論大会	
日本独文学会支部総会	
消火訓練の実施と反省	
経済学部	
学生の就職状況	
日誌	
住所異動と改姓	
改正俸給表	
特別寄稿	
沖繩を憶う	教育学部, 林三雄

大学の目的達成のために図書館の改善に力をいたしてもらいたく、薬学部 村上清造……………  
 追 録 ……………  
 山岳部学生の遭難……………

## 白雪の剣峯を視つめて 万感迫る大雪の新春

梅原真隆

北国にもめずらしい大雪に埋れながら、昭和35年をおくり昭和36年を迎えた。わが富山大学としては悲痛な新しい記録を刻みつけることになった。歳末の28日に赤谷山の山頂に登った山岳部の精鋭の消息がわからないことになったのである。正月元日夜には第一次の救援隊が出発し、連日救援隊が増発されて、5日まで第5次の救援隊が出発した5日には自衛隊のヘリコプター二機が出動して赤谷山上空を飛行してくれた。全力をつくして救援につとめたが、5日の午後、赤谷山の頂上雪洞から遭難の二遺体とその遺品を発見、ああ、他の4名も遭難したことは推察される。まことに悲しみの極みである。

救援隊は遺体の搜索のために極力たちはたらいたが、積雪のために前進されない。そこで、1月14日は林山岳部長を隊長としては24名の強力な搜索隊を編成して、積雪の山頂に遺体を探索することになった。芦峯のガイド15名の協力してくださったことも未曾有の記録である。

今日19日は快く晴れたので、搜索隊は赤谷山頂に攀ち登ったかも知れない、せめては6名の遺体なりとも完全におさめたいものであると、銀のようにかがやく雪の山脈を学長室の窓から望みながらいのりつづけている。

わが富山大学山岳部はこれまで縦横に北アルプスを跋涉してすぐれた成績をあげ、1名の犠牲者も出さなかつた。このかがやかしい史実は周到な工夫と綿密な研究に裏づけられ、気だかい生命と誠実な精進によつて織なされていたのである。これはわが富山大学のほこりとしていたところである。こうした伝統を有つているだけに、このたびの遭難はとりわけて悲痛である。われらは厳かに自己反省に専念している。誠実に検討をかさねている。若し、将来の登山者に対して何ほどか寄与することを得ると認めたときは卒直に表明したいともかんがえている。

## 関係法令

### 法律

- 第150号 一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律 35.12.22官報
- 第168号 昭和36年分の給与所得等に対する所得税の源泉徴収の臨時特例に関する法律 35.12.26官報号外

政 令

- 第 258 号 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律の一部を改正する法律の施行期日を定める政令 35. 9.30官報
- 第 259 号 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律施行令 35. 9.30 //
- 第 283 号 私立学校法施行令の一部を改正する政令 35.11. 5 //
- 第 314 号 昭和36年分の給与所得等に対する所得税の源泉徴収の臨時特例に関する政令 35.12.26官報号外

省 令

- 通産第98号 アルコール売捌規則の一部を改正する省令 35. 9. 30官報号外
- 大蔵第60号 所得税法施行細則の一部を改正する省令 35.10. 1官報
- 文部第16号 学校教育法施行規則の一部を改正する省令 35.10.15 //
- 第 17号 私立学校法施行規則の一部を改正する省令 35.11. 5 //
- 大蔵第65号 物品税法施行細則の一部を改正する省令 35.12.27 //
- 第 66号 国家公務員共済組合法施行規則の一部を改正する省令 35.12.28 //

府 令

- 第 55 号 核燃料物質の使用等に関する規則の一部を改正する総理府令 35. 9. 30官報号外
- 第 56 号 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律施行規則 35. 9.30 //

規 則

- 会計検査院第 3 号 会計検査院事務総局事務分業規則の一部改正する規則 35. 9.22官報
- 人事院 9—17 俸給の特別調整額の一部を改正する規則 35.10.21 //
- 第 9—32 俸給の支給日の特例 35.11.19 //
- 第 1— 4 現行の法律、命令及び規則の廃止の一部を改正する規則 35.12.22官報号外
- 第 2— 6 人事統計報告の一部を改正する規則 35.12.22 //
- 第 9— 2 俸給の適用範囲の一部を改正する規則 35.12.22 //
- 第 9— 7 俸給等の支給の一部を改正する規則 35.12.22 //
- 第 9— 8 初任給、昇格、昇給等の基準の一部を改正する規則 35.12.22 //
- 第 9—22 暫定手当の一部を改正する規則 35.12.22 //
- 第 9—33 職務の等級の最高の号俸又は最高の号俸をこえる俸給月割を受ける職員の俸給の切替え等 35.12.22 //

告 示

- 大蔵第 219 号 出納官吏事務規程第16条に規程する外国貨幣換算率を定める告示の一部を改正する件 35. 9.30官報
- 科学技術庁第22号 放射線を放出する同位元素の数量等を定める件 35. 9.30官報号外
- 文部第 94 号 高等学校学習指導要領を定めた件 35.10.15 //
- 第 102 号 昭和36年度科学研究費交付金および科学試験研究補助金の研究計画書の提出期限等を定める件 35.11.24官報
- 第 105 号 昭和35年度学芸員資格認定実施要項を定める件 35.12.14 //
- 日本学術会議第 1 号 日本学術会議会員死去につき補充したので告示 35.12.16 //
- 郵政第1012号 外国郵便為替等に適用する外国貨幣換算割合の件の別表を改正する件 35.12.19 //
- 大蔵第 295 号 物品税法施行規則第 1 条第 1 項第 3 号の規定に基づき 大蔵大臣の定める方法を指定する等の件 35.12.27 //
- 第 303 号 出納官吏事務規程第16条に規定する外国貨幣換算率を定める告示の一部を改正する件 35.12.28 //

官庁報告

- 科学技術庁 放射線取扱主任者試験の施行について 35.10. 3官報
- 人事院 昭和35年度国家公務員採用初級試験第 1 次試験合格者  
北海道地方、東北地方、東海、北陸地方、四国地方 35.10.22官報号外
- 厚生省 第20回薬剤師国家試験合格者 35.10.25官報
- 第 19回薬剤師国家試験の施行 35.10.27 //
- 人事院 昭和35年度国家公務員採用初級試験合格者  
北海道地方、東北地方、関東、甲信越地方、東海、北陸地方、近畿地方、中国地方、四国地方、九州地方 35.12.12官報号外
- 内 閣 昭和35年度第 1.4 半期における予算使用の状況報告 35.12.14官報
- 人事院 昭和35年度国家公務員採用中級試験第 1 次試験合格者 35.12.17 //
- 第 一般職の職員の給与に関する法律等に定める人事院の権限及び所掌事務の一部の委任に関し決定した件（人事院公示第 5 号） 35.12.22官報号外

通 達

- 文部省所管旅費規則（昭和25年文部省訓令）の一部を改正する訓令（35.10.6文会総第806号）
- 昭和35年秋季火災予防運動実施について（35.10.27国会第193号）
- 衆議院議員の総選挙等に際し、職員の政治的行為の禁止または制限に関する違反の防止について（35.11.4文人審第155号）
- 職員の訓告に関する規程（昭和35年文部省訓令）の制定について（35.11.10文人審第159号）
- 年末年始における官庁新生活運動について（35.12.14国人第150号）

文部省共済組合貸付規則の一部改正

文部省共済組合貸付規程の一部が改正され、昭和35年11月24日から適用される。

改正の要点は次のとおり。

1. 住宅貸付

組合員が自己の用に供するため住宅を新築、増築改築、移築、購入、修理するとき、または、住宅の敷地を購入、借入するとき。

(イ) 貸付限度額

申込人及びその連帯保証人となる者が、申込のときに、受けることのできる、国家公務員退職手当法による退職手当と、国家公務員共済組合法又は国家公務員共済組合法の長期給付に関する施行法による退職給付（退職年金であるときは、その額の4倍）の合算額は、その額の4倍の合算額

ただし、合算額が、50万円以上の場合には50万円

(ロ) 貸付条件

○貸付額30万円までは、抵当権の設定は要しない。

○特別住宅貸付（貸付額31万円以上のもの）は抵当権の設定を要する。

ただし、51万円以上は、本部長が必要であると認めたとき。

(ハ) 保証人

○貸付額20万円まで1名

○貸付額20万円をこえるときは、そのこえる部分の20万円ごとに1名を加えた人数

2. 結婚貸付

従来は、組合員だけだったが、被扶養者又は被扶養者以外の子、孫、弟妹まで拡げるとともに、貸付限度額は、組合員の月収額の2倍までとなった。

3. 特別貸付

新たに組合員、被扶養者、被扶養者以外の子、孫弟妹の入学のために資金を必要とするときに貸付を行なうようになり、貸付限度額は、組合員の月収額の2倍までとなった。

4. その他

他の共済組合から貸付を受けている者が組合員となった場合には、返済するための資金を貸付けることができるようになった。

学 内 規 程

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

別表（第1）中 学部「教育学部」の講座「職業第1講座・職業第2講座・職業第3講座」を「技術第1講座・技術第2講座・技術第3講座」に改める。

附則に次の附則を加える。

附 則（昭和35年9月30日改正）

この学則（改正）は昭和36年4月1日から実施する。

富山大学教育学部規程の一部改正

富山大学教育学部規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

第1条中「(9)職業」を「(9)技術」に改める。  
別表中 項「(職業イ)」を「(技術イ)」に、項「(職業ロ)」を「(技術ロ)」に改める。

附則に次の則を加える。

附 則

この規程（改正）は昭和36年4月1日から実施する。

富山大学工学部規程の一部改正

富山大学工学部規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

別表（1）中 電気工学科を次のように改める。

電 気 工 学 科

学 科 目	単 位 数	学 科 目	単 位 数
専攻科目		関連科目	
数 学	学 4	工業化学概論	3
電 気 磁 気 第1	2	金属工学概論	3

電気磁気第2	4	機械工学概論	3
電気磁気演習	1	機械工作法大意	2
電気回路第1	2	工業力学	2
電気回路第2	4	蒸気	2
電気回路演習	2	蒸気原動機	4
電気磁気測定	2	工業電気化学	4
電気機器第1	4	水力学	2
電気機器第2	4	機構	3
電気機器第3	4	応用数学	2
電気工学設計製図第1	2	応用物理	2
電気工学設計製図第2	4	工業英	2
発電及び変電	4	体	1
送電及び配電	4		
電力応用	4		
電気材料	2		
高電圧工学	2		
法規及び管理	2		
有線通信	3		
伝送工学	3		
無線通信第1	4		
無線通信第2	2		
応用電子工学	4		
超高周波工学	2		
電子管工学	2		
電気工学実験第1	4		
電気工学実験第2	4		
電気工学実験第3	2		
電気工学概論	3		
電気工学特論			
卒業論文	6		

水力機械	5		
流体機械	3		
工業計測	5		
精密測定及び計測機器	4		
機械工作法	6		
工作機械	4		
精密加工	2		
塑性加工	4		
材料試験法	2		
車輞工学	1		
荷役機械	2		
圧縮機械	1		
暖房冷房	1		
機械工学特論			
機械工学設計製図第1	2		
機械工学設計製図第2	4		
機械工学設計製図第3	2		
機械工学実習	2		
機械工学実験	4		
卒業論文	10		

備考 機械工学特論の単位数は必要に応じて定める。  
附則に次の附則を加える。

附 則  
この規程（改正）は昭和35年10月1日から実施する。

**富山大学国有財産取扱規程の一部改正**

富山大学国有財産取扱規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

第2条第1項中「本部（事務局及び学生部をいう。）」を削り、同条第2項中「（本部については、事務局長とする。）」を削る。

第15条、第16条及び第17条第1項並びに第18条、第19条中「て、その許可を受け」を削る。

附則に次の附則を加える。

附 則  
この規程（改正）は昭和35年9月30日から実施する。

**富山大学建築委員会規程の一部改正**

富山大学建築委員会規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

第4条第2項中「委嘱する」を「命ずる」に改め、次の1項を加える。

3 前項の委員に欠員を生じたときは欠員を補充する。

第7条を次のように改め、同条を第5条とする。

備考 電気工学特論の単位数は必要に応じて定める。  
別表（1）中 機械工学科を次のように改める。

機 械 工 学 科

学 科 目	単 位 数	学 科 目	単 位 数
専攻科目		関連科目	
材料力学第1	5	応用物理学	5
材料力学第2	5	応用数学	2
機 構 学	3	応用数学特論	1
機械力学	5	工業力学	2
構造力学	3	冶金機械	1
塑性学	4	紡織機械	1
機械設計法	4	金属組織学	2
精密機械設計法	2	化学工学	4
工業熱力学	4	自動制御	3
伝熱工学	2	生産管理及び経営	4
蒸気	2	電気工学概論	3
蒸気原動機	4	電気実験大要	1
内燃機関	4	工業英	2
水力学	2	体	1
流体力学	3		



第7条 学長は必要に応じ本学職員中から臨時委員を命ずることができる。

第6条を次のように改める。

第6条 第4条第1項第6号の委員の任期は2カ年とする。  
ただし、第4条第3項に規定する補欠の委員の任期は前任者の任期の残余期間とする。

2 前項の委員は再任されることができる。

第5条を第7条に改める。

附則に次の附則を加える。

附 則

この規程（改正）は昭和35年9月30日から実施する。

### 富山大学一般教育委員会規程の一部改正

富山大学一般教育委員会規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

第3条に次の1項を加える。

2 前項第2号の委員に欠員を生じたときは、補欠委員を選出するものとする。

第6条中「第3条第2号」を「第3条第1項第2号」に改め、次のただし書を加える。

ただし、補欠の委員の任期は前任者の任期の残余期間とする。

附則に次の附則を加える。

附 則

この規程（改正）は昭和35年9月30日から実施する。

### 富山大学補導協議会規程の一部改正

富山大学補導協議会規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

第3条に次の1項を加える。

2 前項第2号の委員に欠員を生じたときは、補欠委員を選出するものとする。

第4条に次のただし書を加える。

ただし、前条に規定する補欠の委員の任期は前任者の任期の残余期間とする。

第10条を削り、第9条の次に次の附則を加える。

附 則

この規程は昭和24年8月1日から実施する。

附 則

この規程（改正）は昭和35年9月30日から実施する。

### 富山大学文化部会規程の一部改正

富山大学文化部会規程の一部を評議会の議を経て次のよ

うに改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

第3条に次の1項を加える。

2 前項第1号、第2号及び第3号の委員に欠員を生じたときは、補欠委員を選出するものとする。

第5条第2項中「第3条第1号」を「第3条第1項第1号」に改める。

第6条中「第3条第2,第3号」を「第3条第1項第1号,第2号及び第3号」に改め、次のただし書を加える。

ただし、補欠の委員の任期は前任者の任期の残余期間とする。

附則に次の附則を加える。

附 則

この規程（改正）は昭和35年9月30日から実施する。

### 富山大学体育部会規程の一部改正

富山大学体育部会規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

第3条に次の1項を加える。

2 前項第1号、第2号及び第3号の委員に欠員を生じたときは、補欠委員を選出するものとする。

第4条中「前条第1号」を「前条第1項第1号」に改める。

第5条中「第3条第1,第2,第3号」を「第3条第1項第1号,第2号及び第3号」に改め、次のただし書を加える。

ただし、補欠の委員の任期は前任者の任期の残余期間とする。

附則に次の附則を加える。

附 則

この規程（改正）は昭和35年9月30日から実施する。

### 富山大学学部補導委員会規程の一部改正

富山大学学部補導委員会規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

第3条に次の1項を加える。

2 前項第2号の委員に欠員を生じたときは、補欠委員を選出するものとする。

第5条中「第3条第2号」を「第3条第1項第2号」に改め、次のただし書を加える。

ただし、補欠の委員の任期は前任者の任期の残余期間とする。

附則に次の附則を加える。

附 則

この規程（改正）は昭和35年9月30日から実施する。

**富山大学職業相談所規程の一部改正**

富山大学職業相談所規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

第2条中「学生生徒」を「学生」に改める。

附則に次の附則を加える。

附 則

この規程（改正）は昭和35年9月30日から実施する。

**富山大学学部職業補導委員会  
規程の一部改正**

富山大学学部職業補導委員規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年9月30日

富山大学長 梅原真隆

第2条第1号及び第3号並びに第4号中「学生生徒」を「学生」に改める。

附則に次の附則を加える。

附 則

この規程（改正）は昭和35年9月30日から実施する。

**富山大学工学部規程の一部改正**

富山大学工学部規程の一部を評議会の議を経て次のよう

に改正する。

昭和35年10月28日

富山大学長 梅原真隆

別表（1）電気工学科，専攻科目中，「電子管工学2」の次に「電子計測工学2」を加える。

附則に次の附則を加える。

附 則

この規程（改正）は昭和35年10月28日から実施し，昭和35年10月1日から適用する。

**富山大学文理学部規程の一部改正**

富山大学文理学部規程の一部を評議会の議を経て次のように改正する。

昭和35年12月16日

富山大学長 梅原真隆

第7条を次のように改める。

第7条 授業時間と単位との関係は原則として次のとおりとする。

- 一 毎週1時間15週の講義をもつて1単位とする
- 二 毎週2時間15週の演習をもつて1単位とする
- 三 毎週3時間15週の実験又は実習をもつて1単位とする

第22条の「ただし書」を削る。

附則に次の附則を加える。

附 則

この規程（改正）は昭和35年12月16日から実施する。

人事異動

現官職	氏名	異動内容	発令年月日	発令庁
技工能学部員部	嶋忠雄	辞職を承認する	35. 9. 6	富山大学
助教授 文理学部	杉本新平	昭和35年度文部省内地研究員を命ずる 但し、昭和36年3月10日まで東京大学において倫理学を研究するものとする	35. 9. 11	〃
助 手 部 手 部 手 部	吉原節夫	昭和35年度文部省内地研究員を命ずる 但し昭和36年3月10日まで九州大学において法学を研究するものとする	〃	〃
	市田和夫	助手（工学部）に採用する	35. 9. 16	〃
事務員部 工学部	中島澄子	休職の期間を昭和36年3月21日迄更新する	35. 9. 20	〃
京都大学 助教授	山元孝吉	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和35年12月31日までとする	〃	〃
大阪大学 大教授	中川正澄	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和35年12月31日までとする	35. 9. 25	〃
非常勤講師 教育学部	西出靖夫	辞職を承認する	35. 9. 30	〃
	清水典行	技能員（工学部）に採用する	35. 10. 1	〃
教授 経済学部	土生滋穂	経営短期大学教授に併任する 経営短期大学部主事に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	文部省

助教 教育学部	蔵 島 茂	助教授(文理学部)に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	35. 10. 1	文 部 省
助教 経済学部	石 瀬 秀 治	〃	〃	〃
〃	新 田 隆 信	〃	〃	〃
助教 教育学部	頭 川 徹 治	講師(文理学部)に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	富 山 大 学
〃	中 山 道 子	臨時筆生(工学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	〃
広 島 大 学 授 課 部	今 村 外 治	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	〃
助教 経済学部	武 石 勉	講師(福井大学学芸学部)に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	福 井 大 学
〃	近 藤 康 男	講師(経済学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	富 山 大 学
〃	渡 辺 護	講師(教育学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	〃
〃	飯 原 藤 一	講師(教育学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	〃
〃	大 田 栄 太 郎	講師(教育学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	〃
〃	斉 藤 現 常	講師(教育学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	〃
〃	末 永 雅 雄	講師(文理学部)に採用する 任期は昭和35年12月31日までとする	〃	〃
教 経 済 学 部 授 課 部	植 村 元 覚	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	35. 10. 10	〃
〃	高 桑 昇	講師(文理学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	〃
〃	密 田 正 吉	講師(経済学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	35. 10. 13	富 山 大 学
〃	川 路 紳 治	講師(文理学部)に採用する 任期は昭和35年12月31日までとする	35. 10. 16	〃
用 務 員 部 授 課 部	篠 原 松 次 郎	国家公務員法第79条第1項の規定により休職にする 休職の期間は昭和36年1月16日までとする	35. 10. 17	〃
文 理 学 部 授 課 部	萩 原 信 衛	講師(文理学部)に併任する 任期は昭和35年12月31日までとする	35. 10. 23	〃
工 務 学 部 授 課 部	牧 野 久 幸	辞職を承認する	35. 10. 31	〃
工 務 学 部 授 課 部	沢 芳 昭	技能員(工学部)に配置換する	35. 11. 1	〃
用 会 務 員 部 授 課 部	赤 祖 父 松 輔	文理学部に配置換する	〃	〃
用 工 務 員 部 授 課 部	原 泰 熊	会計課に配置換する	〃	〃
研 究 補 佐 員 部 授 課 部	谷 口 貞 子	教務員(薬学部)に配置換する	〃	〃
文 部 技 官 部 授 課 部	塩 谷 俊 作	助手(薬学部)に昇任させる	〃	〃
研 究 補 佐 員 部 授 課 部	鈴 木 恵 子	教務補佐員(薬学部)に配置換する	〃	〃
〃	渡 辺 倭 文 子	〃	〃	〃
〃	伊 東 法 俊	講師(文理学部)に採用する 任期は昭和35年12月31日までとする	35. 11. 13	〃
〃	村 井 藤 十 郎	講師(経済学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	35. 11. 15	〃
〃	作 道 栄 一	教務員(工学部)に採用する	35. 11. 16	〃
神 戸 大 学 授 課 部	谷 信 一	講師(文理学部)に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	35. 11. 21	〃
京 都 大 学 授 課 部	福 田 国 弥	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	〃
〃	福 田 国 弥	講師(文理学部)に併任する 任期は昭和35年12月31日までとする	〃	〃
信 州 大 学 授 課 部	石 田 光 夫	講師(工学部)に併任する 任期は昭和35年12月31日までとする	35. 11. 25	〃
大 東 文 化 大 学 授 課 部	下 斗 米 晟	講師(文理学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	35. 11. 27	〃

	堀内陸郎	講師(教育学部)に採用する 任期は36年3月31日までとする	35. 12. 1	富山大学
東北大学 教授	能登志雄	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	〃
東京大学 教授	多田文男	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃	〃
大阪大学 教授	足立彰	講師(工学部)に併任する 任期は昭和35年12月31日までとする	〃	〃
事務員 教育部	清水光忠	事務員(教育学部)に配置換する(定員内)	〃	〃
	阿部恭子	事務補佐員(附属図書館)に採用する	35. 12. 16	〃
	大島国雄	講師(経済学部)に採用する 任期は昭和36年3月31日までとする	35. 12. 18	〃
事務員 教育部	清水光忠	辞職を承認する	35. 12. 31	〃
事務補佐員	板谷忠良	事務員(文理学部)配置換する	36. 1. 1	〃
大講 阪大 学 師	横山泰	助教授(文理学部)に昇任させる	〃	文部省

総合情報

昭和36年度学生募集要項

富山大学

1. 募集人員

文理学部

文学科 ..... 40名

専攻種別 { 哲学, 史学, 国文学及び中国文学, 英文学, ドイツ文学

(備考) 入学志願票には専攻を指定しないこと。

理学科 ..... 60名

(専攻種別 数学, 物理学, 化学, 生物学,)

(備考) 上に同じ。

教育学部

第一中等教育科 (4年制) ..... 約75名

専攻別 { 国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 図画工作, 保健体育, 家庭, 技術, 英語  
各若干名

(備考) 入学志願票には必ず専攻を指定すること。

第一初等教育科 (4年制) ..... 約90名

経済学部

経済学科 ..... 160名

薬学部

薬学科 ..... 80名

工学部

電気工学科 ..... 40名

工業化学科 ..... 40名

金属工学科 ..... 40名

機械工学科 ..... 50名

2. 出願期限

昭和36年 { 2月11日 (土曜日) から  
2月20日 (月曜日) まで

郵送の場合も 2月20日 (月曜日) まで必着のこと。

3. 検査日割及び時間表

月日(曜)	検査教科	時間	
3月22日 (水)	点呼(学力検査場において)	午前8時30分~同9時 (30分間)	
	国語	午前9時~同10時30分 (90分間)	
	数学	文科系	午後1時30分間~同3時30分 (120分間)
		理科系	午後1時30分間~同4時 (150分間)
3月23日 (木)	外国語	午前9時~同10時30分 (90分間)	
	理科	午前11時~午後零時30分 (90分間)	
		午後1時~音楽, 図画工作(実技検査のみ), 保健体育の筆答試問および実技検査 健康診断(本学において指定された者のみ)	

4. 検査場所

学力検査, 健康診断とも各自が入学を出願する学部の検査場において受検すること。

文理学部検査場 (富山市蓮町) 文理学部

教育学部検査場 (富山市五福) 教育学部

経済学部検査場 (富山市五福) 富山商業高等学校

薬学部検査場 { (富山市窪町) 奥田中学校 (学力検査)  
(富山市奥田) 薬学部 (健康診断)

工学部検査場 (高岡市古定塚) 工学部

5. 学力検査

次の5教科について, 高等学校卒業の学力程度を標準として出題する。

教科	科目	目
国語科	国語(甲)とする。	
社会科	社会・日本史・世界史・人文地理のうち, 1科目を選択させる。	
数学科	数学	文科系志願者 範囲は, 数学Ⅱまでとする。 理科系志願者 範囲は, 数学Ⅲまでとする。

理科	物理・化学・生物・地学のうち、1科目を選択させる。 ただし、薬学部志願者は、物理・化学・生物のうちいずれか1科目を選択しなければならない。 工学部志願者は、物理・化学のうちいずれか1科目を選択しなければならない。
外国語科	英語・ドイツ語一か国語を選択させる。

1. 文科系志願者とは、文理学部文学科、教育学部および経済学部の志願者をいう。  
理科系志願者とは、文理学部理学科、薬学部および工学部の志願者をいう。  
ただし、教育学部第一中等教育科の数学および理科の専攻志願者は、理科系志願者とする。
1. 数学Ⅰからは、統計、対数表による計算および計算尺の原理、いろいろな曲線、正射影および投影図三角形の解法およびへろんの公式を除き、数学Ⅲからは、順列、組合せ、確率、統計を除く。
3. 経済学部志願者のうち、高等学校の商業に関する課程を卒業した者に限り、教科数学科の検査科目として、数学Ⅰ（数学Ⅰから除く部分は、前項に同じ）と商業簿記を選択することができる。
4. 教育学部第一中等教育科の音楽・図画工作・保健体育専攻を第一志望とする志願者に限り、社会科又は理科のいずれかの1科目の代りに専攻に応じ次の実技の検査および理論の試問を選ぶことができる。ただし、これを選んだ志願者の第2志望は認めない。

そ の 他

合格者は3月31日(金)各学部に掲示し、且つ、本人へ通知する。(電話その他による問合せには一切応じない)  
入学式は4月10日(月)の予定である。詳細は合格者に通知する

昭和36年度学生募集要項

富山大学経営短期大学部

1. 募集人員

経営科第二部 ..... 80名

2. 出願期限

昭和36年2月21日(火曜日)から3月3日(金曜日)まで

3. 学力検査

次の4教科について、高等学校卒業の学力程度を標準として検査する。

国語科 国語(甲)(漢文を除く)

数学科 数学Ⅰ 統計。対数表による計算および計算尺の原理。いろいろな曲線。正射影および投影図。三角函数を除く。

外国語科 英語

社会科 社会、商業簿記のうちいずれか一科目を選択する

4. 健康診断

4月2日(日)午後4時より診断を必要と認めた者について実施する。該当者の受験番号及び検査の詳細は学力検査終了後検査場に掲示する。

5. 検査日及び時間表

月	日(曜)	時	間	検査教科
4月2日	(日)	午前9時	~同10時(60分)	数 学
〃		午前10時30分	~同11時30分(60分)	外 国 語
〃		午後零時30分	~同1時30分(60分)	国 語
〃		午後2時	~同3時(60分)	社 会
		午後4時	健康診断(本学に於て指定された者のみ)	

6. そ の 他

合格者は4月8日(土)本学に掲示し、且つ、本人へ通知する。  
(電話その他による問合せには一切応じない)

参議院文教委員の薬学部視察

参議院文教委員会では先般当面の文教政策に資するため教育文化及び学術に関する調査団を幾つかの地方に派遣したが杉浦武雄、千葉千代世の両議員を代表とする第3班は9月2日から6日までの5日間、富山、岐阜の両県へ出向した。9月3日一行は本学を来訪、薬学部を視察調査しその陳情を聴取した。この仔細については、10月15日の参議院文教委員会の議事録から杉浦委員の報告速記を抜いて、それを伝えることとする。なお一行は学校教育の一般問題については県教育委員会から聴取し、文化財関係については特別天然記念物となつている魚津埋没林を視察した。

議事録抜粋

まず、大学について申し上げますと、私ども参りました富山大学薬学部は、明治42年に県立富山薬学専門学校として創設せられ、大正9年に国立に移管せられたものでありまして、年々多くの優秀な卒業生を送り諸設備及びそのその業績は高く評価せられておりましたが、昭和20年の8月戦災のため建物も設備もほとんど焼失してしまいましたので、同窓会などを中心とする復興期成会が結成せられまして、その活発なる活動によりまして、地元はもとより、全国の同窓生及び薬業会社から多額の浄財が寄付せられ、これと国費と相まって至難な復興も感速に進捗しまして、現在では施設においてはほぼ旧態に復し昭和24年新制大学に転換以来、さらに鋭意設備の充実に努力をしている状態であります。また、付属の施設としては、医薬資源研究所、薬草園、無菌製剤室、放射性同位元素応用研究室等を有し一そう研究の成果を上げているようであります。なお、昭和

30年設からは専攻科が設置されて、多年の要望であつた卒業生並びに薬学専攻に関連のある理科系大学卒業生などのために、学校教育法に定める精深なる薬学研究に応ずることとなりまして、名実ともに薬学教育の重要な地位を堅持いたしている状態であります。私どもはここで熱心な陳情を受けたものでありますが、その内容は次のようなものであります。

1. 大学院の設置についてであります。これは、薬学部をもつ国立の新制大学共通の念願でありまして、機会あるごとに文部省に陳情しているということでありました。
2. 製薬学科の増設についてであります。現在本学部は薬学科の一学科のみでありまして、近年著しい医薬品の進歩発展に伴いまして、従来の薬学教育に加えて、製薬技術者の養成のための専門学科の新設が必要となつて参りましたので、本学部に製薬学科を設けて時代の要求に応じようとするものであります。ことに富山県は全国屈指の薬業県でありますので、地方産業の発展に寄与する面からも、製薬学科の設置を強く要望しておりました。
3. 薬学部付属の研究施設として薬用資源研究所を新設してほしいとのことであります。こゝには、他の大学に見ない薬草園1万坪を擁して、研究所と表裏一体の使命を遂行いたしている現状でありますので、学部付属の研究施設として薬用資源研究所の設置も認められたいというのであります。
4. 教官定員の増加についてであります。同学部の現在教官定数は27名であります。これは他の大学の薬学部比べて定員数が少ないのでありまして、ぜひとも最小限4名の助手を増加していただきたいということでありませう。

### 衆議院文教委員会の調査

11月10日午後、委員会調査員大中臣信令氏来学、大学における研究施設設備及び教官の待遇に関し調査した。施設、設備については先年同氏来学現場調査済みであるので、今回はその後の新設、異動を生じたものも現場調査を省き主として書類や口頭説明によつての調査に主眼がおかれた。なお今回の調査は富山市区学校全体について行なわれたもので、大学はその大いなる一環として対象となつたものである。

### 高等学校長と大学側との連絡協議会

例年秋又は年暮れに開かれる県下高等学校長と県教育委員会を交えての来年度学生募集についての連絡協議会は12月12日富山荘で開かれた。本学側からは学長を始め、大島学生部長、土生経営短大主事、学生部課長などが出席した。学長、川瀬教育長の挨拶のあと36年度の学生募集要項については、大学は大島部長から、短大は土生主事から、それぞれ説明があつた。次いで協議にはいつたが、この席で大学側から明年度より、経済学部の入試試験を受ける高等学校の商業課程卒業生には、数学の代わりに商業で受験出来

ることを明らかにした。高校側からは、経済学部定員160名に対し、実際の入学者は134名であつて、定員を十数名も下まわつているがボーダーラインの受験者に定員一杯の考慮が出来ないものか。また短大の学生の1/3が就職者でないのも短大設立の趣旨に鑑み考慮されたいとの要望が出た。なおこの席上、38年度から工学部に化学工学科を新設したい意向が洩らされた。現在工学部には工業化学科があるが、これは化学反応や分析など化学中心のものである。オートメーション化という時代の趨勢に応じて、化学機械の操作および設計といったものに重点を置いた定員40名程度の新学科を設けたいというものである。

なお、この席上高校側からP・T・A連絡協議会長名の農学部設置についての陳情書が大学側に提出された。それには北陸三県に農業関係の大学、学部がないこと、県土総合開発計画に関連して農業近代化の必要があること、地元の要望も極めて強いことなどが理由として挙げられている。そして設置学科としても農業土木、農業機械、農業化学及び畜産の4学科を具体的に指示要望している。

### 文部省委嘱専門講座開設

この講座については第17号学報で紹介しておいたが、社会教育法第48条により文部省の委嘱を受けて実施するものである。その目的を一言でいえば大学の学外進出である。ことしは工学部で次のとおり行なわれた。

1. 講座名 金属工学講座

2. 開設期間及び総時間数

8月22日～9月6日 時間数 48時間

3. 受講者 会社関係者 42名 (男子)

学校関係者 2名 (〃)

4. 講座の目標 主として製錬関係(鉄冶金、非鉄冶金、物理化学、鑄造、電気冶金等)の理論と實際を広く会社工場勤務者、中学、高校教員等に知らしめることを目標とする。

5. 講義題目と講師及び時間数

鉄冶金学、海綿鉄の製造とその試験

教授 森 棟 隆 弘 4時間

非鉄冶金学 講師 瀬川 安一郎 8時間

電気冶金学 助教授 位崎 敏男 8〃

物理化学 教授 浅岡 忠知 8〃

鑄造学 〃 養田 実 8〃

鉄合金鉄 日本鋼管次長 塩谷 周三 4時間

電気製鉄 呉羽製鉄製造課長 高井 清 4〃

これに対して工学部から実施後の所感として次のとおり報告している。

本講座も3年目を迎え地元聴講者が可なり底をついたのではないと思われたが、予想以上の盛況で、毎日35名前後の者が熱心に講義を受けたことはまことに成功であつたと考える。



特に今年は富山県だけでなく近県にも呼びかけ、北陸地方における行事として運営に心がけたが、聴講者の中には遠く東は新潟県糸魚川市より、また西は石川県加賀市大聖寺から遙々参加している。これはこの期待に添い北陸地方の行事としての実態を備え得たものといつてよからう。聴講者の出席は頗る良好で皆出席18名、日程の3分の2以上出席した人は26名もいた。このことは如何に皆熱心であつたかを物語るものであろう。

開講時期も暑からず寒からず従来の11、12月に較べて非常に快適で良かったと思う。聴講者からアンケートを取つた結果、概論的にならず重点的に深くやつて欲しいという希望が1、2出されていたが、諸種の事情を検討して今後の参考とすべきであらう。

### 民主教育協会教養講座の開催

東京に本部を有し、嶺山政道氏を会長とする民主教育協会の東海支部(支部長勝沼精蔵氏)が教養講座を当地で開催することになった。これに本学と県市の教育委員会が加わつて、共催のかたちで次のとおり実施された。聴講者は100名に限定し、その資格は自由としたが、大体教育者が多かった。最終日は日曜日に当つたので、特に県下公立諸学校の校長を招待して、初日から引き続いた聴講者とともに評論家坂西志保講師の講演を聴いて貰つた。

- 10月27日 3時市公会堂 “考えることについて”  
名古屋大学名誉教授 勝沼精蔵
- 28日 3時 “ ” “民主主義と国民性”  
富山大学教授 大島文雄
- 29日 3時 “ ” “個人の性質と仲間の性質”  
名古屋大学教授 続有恒
- 30日 1時30分 昭和会館  
“多数の支配と少数の権利”  
評論家 坂西志保

### 科学教育研究室の閉室

5月16日から前後2期に分けて行なわれた科学教育研究室も、12月15日をもつて予定どおり終了した。研究生8名は当日黒田講堂貴賓室で行なわれた閉室の式に臨んだ。式には学長始め関係各学部長、指導教官の他、学生部長、事務局長も列席、また来賓として県教委の寺田指導係長等が出席した。型のごとく、学長、学部長、学生部長、事務局長などの指導教官や研究生の労に対するねぎらいの辞に対し、指導教官を代表して教育学部の蜷川教授から報告をかねての挨拶があり、次いで研究生を代表して富山工業高校の宇津一郎教諭が感謝の挨拶を述べた。かくて一同歓談の後式を終えた。

### 永年勤続者の表彰

ことしも勤労感謝の日の設定の趣旨に添つて、本学の永年勤続者表彰が行なわれた。挙式は感謝の日の前日である11月22日午前11時本部会議室で行なわれ、勤続者に感謝状と記念品が贈呈された。まだこの表彰に関する規程は設けられていないが、表彰される者の勤続年数は本学在勤年数に、(10年以上)、他の教育機関のそれを加えて20年を越すということになっている。なおこれは本学と大学後援会の共催となつているものである。従つてこの式には大学後援会の代表が出席祝辞を述べることとなつているが、学長の式辞のあと山森副会長がこれを行なつている。これに対し松本弘一助教授の答辞があり、正午黒田講堂貴賓室でささやかな午餐を共にして散会した。ことしの表彰された人々は次のとおりである。

部局	官職	氏名	勤続年数	勤続年数内訳	
				本学	他の教育機関
事務局	文部事務官	本田文治	年月 20.7	20.7	0
文理学部	教授	柴田萬年	27.2	10.2	17.0
”	助教授	坂井誠一	21.6	17.6	4.0
教育学部	”	頭川徹治	20.3	20.3	0
”	教諭	田林親康	20.7	15.11	4.8
”	文部事務官	北林秀次郎	20.6	20.6	0
薬学部	助教授	松本弘一	20.5	20.5	0
工学部	教授	森光三	35.1	10.0	25.1

### 梅原学長の受賞

北日本新聞社では県内外に於いて、郷土の産業文化の発展と県民の福祉向上に尽力人々を賛える、北日本文化賞を、毎年11月3日の文化の日に授与しているが、ことしは5氏が選ばれ梅原学長も浄土真宗の教義の深い研究と、著書と行脚による布教の業績が認められて、この選のうちに入つている。

### 鈴木米三助手理学博士に

目下スエーデンに留学中の文理学部生物学教室鈴木助手は(専攻植物生理学)、「ハシトロ及び黄茶ルピナスのフェノールオキシダーゼとアミノオキシダーゼに関する研究」なる学位論文を東北大学理学部の長尾昌之教授の許に提出、その審査を受けていたが、昨年8月25日付をもつて理学博士の称号を得た。

### 植村教授経済学博士に

経済学部の植村元覚教授はかねて大阪大学経済学部の宮本又次教授の許に「行商圈と領域経済」なる学位論文を提



出中のところ昨年11月25日同学部の教授会を通過した。これについて教授は、次のごとく述べている。

江戸時代とくに中期以降は、領主的ならびに農民的商品経済が進展し、各藩は独立の国家のようにその貿易のバランス策を企画し検討した。諸藩に入りこむ商人は、旅先の地域経済に即して商圈を設置したが、それにはこの新しい問題に対処することが第一の課題であった。

本研究はこの問題意識をもつ商人の経営についての研究、即ち経営史的研究と商圈の歴史地理学的研究の二つの視角からのメスでこれを探求し、体系化したものである。産業研究の新しい方法論的試論である。

なおこの経営史研究は最近ようやくわが国でおこりつつある新分野であるが、同教授はかつてわが国にこれを紹介したひとりである。

### 四十万事務官の逝去と叙勲

文理学部四十万栄次郎事務官は11月18日脳溢血のため逝去された。氏は昭和20年11月富山高等学校事務員として勤めてから15年になる。東岩瀬小学校など訓導生活25年、戦時中日本曹達岩瀬工場付属青年学校教師を勤むること6年、何れも教育畑で終始して、その64年間の生涯を閉じている。もつて生れた性格から、そして経歴から、律義で、真面目な人であつたが、何より人に迷惑をかけず、人の邪魔をしないという生活態度と、勤務振りは、消極には似ているが、自信過剰で自己主張の余りにも強い。得がたい人物であつたといつていい。またまさに人間の程を知つた悟りに近い境地にあつた人といえよう。哀惜に耐えない。

氏の生前の功績にに対し12月18日付で勲八等叙勲の沙汰があつた。

### 工学部工業化学実験研究室第二期工事

前19号で第一期工事の概要を記し、第二期工事が11月から着工すると予報しておいたが、10月14日契約、その後着々として工事を進めている。そして3月末に竣工する予定である。その概要は次のとおりである。

#### 鉄筋コンクリート3階建

建坪 310平方米 (約 93.775坪)

延坪 930平方米 (約281.325坪)

#### 請負金額

建築費 16,120,000円

給排水工事費 2,252,000円

電気工事費 1,505,000円

#### 請負施工業者

建築工事 前田建設株式会社

給排水瓦斯工事 五歩一工業株式会社

電気工事 米沢電気工事株式会社

そして設計施工管理者は教育施設部名古屋工事事務所である。

### 附属中学校の生徒ホール竣工

附属中学校では旧ろう27日生徒ホールが竣工した。36坪の小さいものであるが、その建設費209万円全額が同校のP・T・Aの寄付になるものである。木造平家建て、体育館更衣室12坪と食堂兼ホール24坪の二つの部分からなつている。

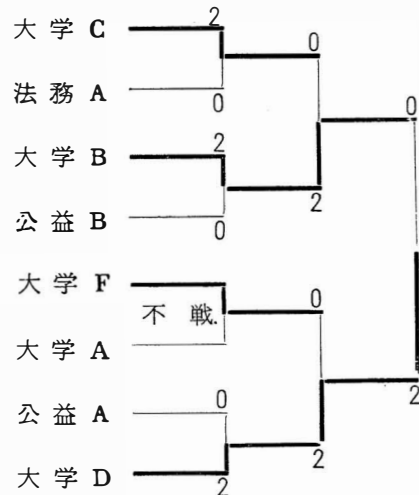
### レクリエーション

#### 全国公務員レクリエーション共同事業バトミントン大会

室内競技として毎年冬季に行なつてきたこの競技大会をことしは野球大会をとりやめた故もあつて、気候の快適な10月25日に実施することとなつた。従つて一暦年度に同種目の競技大会が2度行なわれる結果となつた。会場はやはり興国人絹パルプ工場体育館である。参加チームは22で前回と同数だが、機関は一つ減つて5つである。本学からは前回(2月24日)同様6チームが出場した。予選リーグ戦では、4つのゾーンに何れも本学チームが加つて戦つた、このうちEチームのみ3位となつて脱落したが、他は何れも決勝トーナメントに出場、次のような戦績を挙げ3位までの賞を全部大学で獲得した。3賞の順位は、優勝、石野平野組、準優勝、斎藤、松下組、三位、山本、土池組、である。

前回の大会も3位まで独占して、然かも1、2位は今回同様の組が賞を得ている。

#### 決勝トーナメント戦績



### 部局情報

文理学部

### 富山県下高等学校英語弁論大会

文理学部英文学教室が毎年秋に富山県教育委員会と共催でおこなつてきた、県下高等学校英語弁論大会が、本年も

10月23日文理学部で開かれた。参加校は12校で例年より幾分少なく、特に男子の参加者が二人しかなかったことは少々寂しかった。当日の審査員には英文科教官七名のほか、米人講師のブラウン氏も加わり、各自、内容、態度、発音などの細かい点をも考慮し、総合成績を判定した結果、富山中部高校の小野木和子さんが1位となり、読売新聞社の優勝盃を獲得した。本大会は今年で十回目を迎えたが、ここ数年出場者の英語の発音がますます良くなり、発想法も自然になつてきたことは喜ばしいことである。なお当日公開講座としておこなわれたブラウン氏の英語の学習に関する講演において、参会者に多くの反省考究すべき問題を与えられたことは、この会のもう一つの大きな収穫であつた。(寄)

### 日本独文学会支部総会

昭和35年10月22日富山大学附属図書館において、日本独文学会北陸支部総会並びに研究発表会を開催、新潟大学、金沢大学、福井大学、富山大学より約30名出席、本学の研究発表者は上野英雄、田中道夫の両氏であつた。(寄)

### 消火訓練の実施と反省

暖房期の到来と、全国一斉に行われた「昭和35年度秋季全国火災予防運動実施」を契機とし、文理学部においては次の通り消火訓練及び訓練の反省を行なつた。

#### 1. 消火訓練想定

- (一)とき、12月2日午後4時火災発生
- (二)発生場所、アイソトープ研究室南側附近
- (三)目的、(イ)本学防火規程に規定された部局長の責務の実際的かい明と消防団設置の足がかりとする。又、これに加え防火思想の普及徹底、火災の防止、消火及び避難計画の樹立の前提となるものを体得
- (ロ)突発的な火災に対し、初期消火がどの程度発揮できるか
- (ハ)構内各所の消火機器の所在の再確認

以上のとおりの想定訓練を突発的に実施したが、学科等を担当する教官又は授業中の学生を除き、多数これに参加し、屋内消火栓の機動、消火器の搬入、防火槽を中心とするバケツリレーなど、協力的な動員によつて、発令から2分間に集中実施された。これには学生諸君の応援もあつて

いさゝか野次馬的なところも見受けられないではなかつた。併し消火器を運搬するもの、バケツリレーをする者、皆協力的であり、訓練実施本部としては、その効果の挙がつたことを確認した。

#### 2. 訓練の反省 12月5日午後4時から行なつたが次のとおり。

- (一)集中して給水をするには、火災附近以外の給水栓の停止を行なうこと。
- (二)防火扉の開閉は避難にも通ずることから、本部指示

に従うこと。

- (三)事故の発生防止から部分的に給電を停止すること。
  - (四)夜学の場合は、宿直者が責任者となり部内外の連絡求援を求めて逐次本部組織に移行する。
  - (五)昼間の場合は、消防本部は連絡し易いところにこれを置き、外部への連絡、求援の活動は必ず本部経由とすること。
  - (六)構内の要所々々に宿直者に通ずる非常ベルを設置し警備中の巡視と宿直者の緊急連絡機能に備える処置を構ずること。
  - (七)消火栓の筒先を必ず警務員室に備えること。
- こうした訓練と反省とを組織体系化せんとした意図がこの体験によつて職員の間徹底したものと信ずる。(寄)

### 経済学部

#### 経済学部学生の就職状況 (昭35.12)

卒業予定者総数	142
就職希望者総数	134
自家営業その他	8
就職内定者総数	134

大企業内定者数	106	} 134
中企業内定者数	16	
小企業内定者数	5	
官公庁内定者数	7	

産業別	漁業	1	} 134
	建設	1	
	製造	48	
	商事	19	
	金融保険証券	46	
	運輸通信	10	
	サービス	2	
公務員	7	(寄)	

### 日誌

### 文理学部

- 9. 1. 昭和35年度前期第14週授業開始
- 3. 国有財産監査
- 7. 補導委員会
- 教授会
- 14. 前期授業終了

- 9. 15 理学科教官会議
- 17 職業補導委員会
- 21 文学科教官会議
- 29 アイソトープ実験室関係検査  
(総理府科学技術庁検査官)
- 10. 7 教授会
- 〃 人事教授会
- 14 アイソトープ運営委員会
- 19,20 全国文理学部長会議 (於千葉大学)
- 21 会計事務監査
- 25 要注意者のX線間接撮影
- 29,30 学部秋季レクリエーション(行先小川温泉)
- 11. 2~6 青冥寮祭
- 9 人事教授会
- 10 庶務事務監査
- 14 理学科教官会議
- 15 移転建築委員会
- 16 教授会
- 18 四十万栄次郎逝去さる
- 23 県下高等学校英語弁論大会 (於文理学部)  
(文理学部英文教室、県教委共催)
- 30 補導委員会
- 〃 文学科教官会議
- 12. 2 消火訓練実施
- 5 消火訓練反省会
- 7 図書委員会
- 14 教授会 人事教授会
- 16 寮生との懇談会
- 19 理学科教官会議

教 育 学 部

- 9. 1.~ 7 前期末試験
- 8.~10.4 教育実習
- 14. 教授会
- 17.~18 秋季レクリエーション (上高地)
- 10. 3.~ 5 昭和35年度幼稚園教育指導者講座 (於福井県)
- 4 オリエンテーション (於黒田講堂)
- 5 後期授業開始、教授会
- 7.~ 8 日本教育大学協会北陸地区第一部会 (於福井大学)
- 9 研究協議会 (於附属中、小、幼)
- 10.~13 昭和35年度教員養成学部教官研究集会  
(於広島大学)
- 11.~12 日本教育大学協会北陸地区第二部会外国語  
研究協議会 (於新潟大学)
- 12 教授会

- 16 学窓会総会 (於黒田講堂)
- 20.~21 日本教育大学協会北陸地区第二部会職業科  
職業指導科学研究協議会 (於金沢大学)
- 〃 産業教育研究会
- 22.~23 秋季職員レクリエーション (下呂)
- 25.~26 日本教育大学協会北陸地区第二部会美術研  
究協議会 (於金沢大学)
- 26 職業補導委員会
- 29.~30 日本教育大学協会北陸地区第二部会音楽科  
研究協議会 (於新潟大学高田分校)
- 11. 2 教務委員会
- 4.~ 5 日本教育大学協会北陸地区第二部会教育心  
理研究協議会 (於福井大学)
- 7.~ 9 物品検査実施
- 11. 庶務事務監査実施
- 15.~16 日本教育大学協会北陸地区第二部会数学科  
研究協議会 (於信州大学)
- 17.~18 日本教育大学協会北陸地区第二部会理科研  
究協議会 (於富山大学)
- 20.~21 日本教育大学協会北陸地区第二部会理科教  
育研究協議会 (於福井大学)
- 24.~25 文理学部を併設されている教育学部長会議  
(於千葉大学)
- 25.~26 日本教育大学協会北陸地区第二部会美術科  
研究協議会 (於金沢大学)
- 28.~12.1 昭和35年度教員養成学部教官研究集会心理  
社会学研究会 (於横浜国立大学)
- 12. 6 学生就職対策会議
- 7 教務、職業補導委員会
- 8 県教育委員長川崎順二氏退任挨拶のため来  
部
- 10 体育学会例会
- 12 理科関係教官、事務局長を加えて打ち合せ  
会
- 14 人事教授会、教授会
- 22 授業終了
- 27 附属中学校生徒ホール更衣室竣工式

経 済 学 部

- 9. 7 教務委員会
- 8 職業補導小委員会、教授会 (第8回)、人事  
教授会
- 9 図書委員会
- 13 財務委員会
- 15 職業補導小委員会
- 19 図書委員会
- 24.~25 秋季職員レクリエーション (奥能登周遊)

- 29 職業補導小員委会
- 10, 5 職業補導小員委会
- 7 教務委員会, 教授会 (第9回)
- 8 専門課程進学者オリエンテーション
- 10 後期授業開始, 臨時教授会 (第10回)
- 13 補業補導小委員会
- 19 大分大学経済学部長重光蔵氏来部
- 27 教務委員会, 教授会 (第11回), 職業補導小委員会
- 28 学内会計事務監査
- 11, 1 神戸大学経済学部教授宮下孝吉氏講演会開催
- 10 衆議院文教委員会調査員大中臣信令氏来部
- 11 日本学術会議第2回中部地方区会議 (於会議室)
- 13 北信越学生ゼミナール大会 (於会議室)
- 11, 14 学内庶務事務監査
- 17 教務委員会, 教授会 (第12回)
- 24 学部運営委員会
- 26 越嶺会総会
- 12, 1 昭和35年度秋季国立十大学経済学部長会議 (於虎の門共済会館)
- 12, 8 人事教授会
- 15 教務委員会, 教授会
- 21 東京部立商科短期大学助教授大島国雄氏スライド講演会 (1番教室)
- 22 学部運営委員会

**薬 学 部**

- 8, 29, ~9.2 富山財務部から国有財産 (土地, 建物) の評価に来学
- 9, 2, ~3 薬学部をもつ新制6大学事務局長会議 (於徳島大学)
- 3 参議院文教委員会委員杉浦武雄氏, 全千葉千代世氏大学教育実状調査に来部
- 〃 夏季休業終了
- 5 授業開始
- 20 前期授業終了
- 22 教授会
- 26, ~10.3 3年次前期々末試験
- 27 国, 公立薬科大学, 学部 (科) 長会議 (於山中)
- 28, ~29 全国薬科大学, 学部 (科) 長会議 (於山中)
- 〃 科学技術庁原子力局放射線安全課総理府抜官, 井出喜夫氏並びに総理府事務官佐々木茂行氏, 放射性同位元素使用状況調査に来部

- 9, 30 東京大学薬学部事務長小室勝氏来部
- 10, 6 教授会
- 〃 職業補導委員会
- 13 教授会
- 13, ~14 国立大学薬学部事務長会議 (於熊本)
- 〃 北陸財務局管財部長来学
- 17 後期授業開始
- 21 専門課程受入学生に対するオリエンテーション
- 24 教授会
- 26 会計事務監査
- 11, 3 金沢大学薬学部学生招待交歓会 (於五福地区)
- 6 北陸, 甲信越薬学大会並びに薬剤師大会及び日本薬学会北陸支部第11回例会 (於富山市公会堂)
- 11 レントゲン直接撮影
- 16 教授会
- 〃 庶務事務監査
- 21 富山電報電話局施設部増設電話課長荒木博氏他校内電話施設の検査に来部
- 29 名古屋大学附属病院にて療養の薬学部長横田嘉右衛門全快, 帰富
- 12, 1 教授会
- 3 文部省薬学視学委員刈米達夫氏, 伊藤四十二氏並びに大学学術局大学課菴谷利夫事務官実地視察に来部
- 14 教授会

**工 学 部**

- 9, 23 金大工学部対富大工学部交換庭球大会
- 10, 13 教授会
- 31 補導委員会
- 11, 4 会計事務監査
- 15 庶務事務監査
- 17 日本金属学会北陸支部, 日本鋼協会北陸支部秋季講習会
- 12, 23 金大工学部対富大工学部交換庭球大会

**附 属 図 書 館**

- 9, 5 時間外閲覧開始, 夜間15時~18時, 土曜13時~15時
- 10, 5~8 第7次全国国立大学図書館長会議, 及び文部省主催全国国立大学図書館研究集会 (金沢大学)
- 11, 30 昭和34年度増加図書目録刊行 (昭和34年4月~35年3月 P.300)

<p>12. 9 第3回図書館商議会</p>	<p>21~22 第10回国立短期大学部主事, 事務長会議 (於山口大学工業短期大学部)</p>																																		
<p style="text-align: center;"><b>本 部</b></p>	<p>11. 21 授業料減免選考委員会</p>																																		
<p>9. 2. 3 6 大学事務局長會議 (於徳島大学) 3 参議院, 杉浦, 千葉両文教委員来学 13 民主教育協会須川事務局長来学 20 認定講習委員会 28~29 北陸三大学, 学長會議 30 評議会 14 北陸財務局長, 富山財務部長, 富山財務部 管財第一課長視察のため来学 15 職員運動会 18 富山県各事業所, 就職懇談会 20~21 北陸東海地区庶務部課長會議 (於名古屋大学) 27~30 民主教育協会講演会 (於市公会堂) 27 体育部会 28 評議会 31 後援会理事会</p>	<p style="text-align: center;">~~~~~ 改 姓、住 所 ~~~~~</p>																																		
<p>11. 1~2 北陸東海地区会計部課長會議 (於名古屋大学) 5 補導協議会 9~10 北陸, 東海地区施設課長會議 (於名古屋大学) 10 衆議院, 大中臣調査員来学 庶務事務監査, 文理学部 11~12 日本学術會議中部地方区會議 (於経済学部) 11 庶務事務監査, 教育学部 12 文化部会 14 庶務事務監査, 経済学部, 図書館 15 “ 工学部 16 “ 薬学部 22 永年勤続者表彰式 25~26 国立大学協会総会 26 授業料減免委員会 東京学芸大学宮崎局長来学 28~29 後援会研修会 (金大) 12. 3 刈米, 伊藤, 薬学視学委員実地視察の為来学 7 住宅委員会 12 育英会寺尾理事他来学 高校連絡協議会 15 科学教育研究室修了式</p>	<p>改 姓</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>(旧)</td> <td>(新)</td> </tr> <tr> <td>薬 学 部 事務補佐員</td> <td>野 崎 和 子</td> <td>金 兵 和 子</td> </tr> </table> <p>職員住所</p> <p>新任者</p> <table border="0"> <tr> <td>文 理 学 部 助 手</td> <td>上 野 英 雄</td> </tr> <tr> <td>工 学 部 助 手</td> <td>市 田 和 夫</td> </tr> <tr> <td>“ 教 務 員</td> <td>新 井 甲 一</td> </tr> <tr> <td>“ 教 務 員</td> <td>作 道 栄 一</td> </tr> <tr> <td>“ 技 能 員</td> <td>清 水 典 行</td> </tr> <tr> <td>図 書 館 事務補佐員</td> <td>阿 部 恭 子</td> </tr> </table> <p>異 動</p> <table border="0"> <tr> <td>事 務 局 技 能 員</td> <td>沢 本 省 三</td> </tr> <tr> <td>文 理 学 部 助 手</td> <td>中 山 充</td> </tr> <tr> <td>“ 事 務 補 佐 員</td> <td>涌 井 芳 朗</td> </tr> <tr> <td>教 育 学 部 助 教 授</td> <td>頭 川 徹 治</td> </tr> <tr> <td>“ 助 教 授</td> <td>高 野 兼 吉</td> </tr> <tr> <td>“ 事 務 官</td> <td>浦 田 隆 志</td> </tr> <tr> <td>薬 学 部 事務補佐員</td> <td>金 兵 和 子</td> </tr> <tr> <td>工 学 部 事 務 員</td> <td>山 口 清 一</td> </tr> </table>		(旧)	(新)	薬 学 部 事務補佐員	野 崎 和 子	金 兵 和 子	文 理 学 部 助 手	上 野 英 雄	工 学 部 助 手	市 田 和 夫	“ 教 務 員	新 井 甲 一	“ 教 務 員	作 道 栄 一	“ 技 能 員	清 水 典 行	図 書 館 事務補佐員	阿 部 恭 子	事 務 局 技 能 員	沢 本 省 三	文 理 学 部 助 手	中 山 充	“ 事 務 補 佐 員	涌 井 芳 朗	教 育 学 部 助 教 授	頭 川 徹 治	“ 助 教 授	高 野 兼 吉	“ 事 務 官	浦 田 隆 志	薬 学 部 事務補佐員	金 兵 和 子	工 学 部 事 務 員	山 口 清 一
	(旧)	(新)																																	
薬 学 部 事務補佐員	野 崎 和 子	金 兵 和 子																																	
文 理 学 部 助 手	上 野 英 雄																																		
工 学 部 助 手	市 田 和 夫																																		
“ 教 務 員	新 井 甲 一																																		
“ 教 務 員	作 道 栄 一																																		
“ 技 能 員	清 水 典 行																																		
図 書 館 事務補佐員	阿 部 恭 子																																		
事 務 局 技 能 員	沢 本 省 三																																		
文 理 学 部 助 手	中 山 充																																		
“ 事 務 補 佐 員	涌 井 芳 朗																																		
教 育 学 部 助 教 授	頭 川 徹 治																																		
“ 助 教 授	高 野 兼 吉																																		
“ 事 務 官	浦 田 隆 志																																		
薬 学 部 事務補佐員	金 兵 和 子																																		
工 学 部 事 務 員	山 口 清 一																																		
<p style="text-align: center;"><b>経営短期大学部</b></p> <p>9. 15 教官會議 24~25 短大レクリエーション (奥能登周遊) 10. 3 後期授業開始 13 経済学部, 短大合同委員会</p>	<p>町村合併による名称変更</p> <table border="0"> <tr> <td>事 務 部 技 術 員</td> <td>野 崎 稔 雄</td> </tr> <tr> <td>文 理 学 部 教 授</td> <td>清 水 輝 次</td> </tr> <tr> <td>“ 教 授</td> <td>守 屋 獅 郎</td> </tr> </table>	事 務 部 技 術 員	野 崎 稔 雄	文 理 学 部 教 授	清 水 輝 次	“ 教 授	守 屋 獅 郎																												
事 務 部 技 術 員	野 崎 稔 雄																																		
文 理 学 部 教 授	清 水 輝 次																																		
“ 教 授	守 屋 獅 郎																																		

文理学部	教授	岡崎 初雄
〃	助教授	手崎 政男
〃	技能員	森田 美喜子
教育学部	助教授	大場 友次
〃	事務官	平岡 幸一
〃	事務官	松村 すゑ子
経済学部	事務官	森田 隆夫
〃	事務官	蔵島 博
〃	事務員	野上 文雄
薬学部	教授	志甫 伝逸
〃	事務官	高倉 弘一
〃	研究補佐員	渡辺 倭文子
短期大学部	用務員	五十嵐 清平

## 職員録（35年8月）の訂正

事務局	技官	前島 健治
教育学部	事務官	小川 君子
〃	事務員	野尻 津喜夫
工学部	助手	平木 道幸

## 特別寄稿

## 沖縄を憶う

林 三 雄

沖縄の先生たちの夏季講習会に派遣されて、那覇市で一夏を過しましたが、その時の思い出や沖縄の教育事情を少し述べます。

那覇空港へは羽田から普通機で四時間足らず、ジェット機で一時間50分で到着するので、一向に遠い感じがしませんが、やはり亜熱帯に属するだけあって気温は7・8月はず

つと33度前後が続き、昼夜の温度差が少ないのと湿度が多いので、ちよつとこたえます。しかし那覇には、最近、八汐荘という教員共済会経営の洋館三階建の宿泊所ができて設備も良く、料理も和風なので、夏痩せを覚悟して行つた私たちも比較的快適に過しました。

商店には、日本製、外国製のあらゆる物が売られ、衣類や食料品を遙々持参する必要がなかつたと講師団をガツカリさせました。日本製は2-3割高ですが、外国製は自由貿易のため贅沢品ほど安価です。

沖縄本島は、今度の戦争と基地建設のため、中部以南の地理はすっかり変貌したため、もとの沖縄の姿は本島北部か、小さい離島に行かなければ見られません。今は那覇市に合併された首里は、戦前、旧王城を囲んで風なお暗い森林だつたそうですが、今は一木もなく、爆撃に崩れた旧王たちの墓地にただ雑草がおどろに生えているだけでした。この小高い王城跡に琉球大学が立っていて、その屋上から西方を見下すと、沖縄総人口83万の約4分の1が集まる那



琉球大学

覇市が、夏の強烈な日光を反射して、白くキラつき、眼を休める一点の緑地もありません。那覇はいわば「白い街」です。沖縄にはこれという地下資源もなく、農村も戦後帰琉した人々を吸収する力がなく、人々は結局アメリカ民政府と琉球政府の膝もとの那覇市に生計の途を求めて集つたようです。

ひめゆりの塔など教知れぬ慰霊塔をたずねる戦跡めぐりの時は、何ともやり切れぬほど重苦しい感じになりました。殊に、雨の日旧沖縄県立一中の鉄血勤王隊の碑を訪ね、碑面の戦死者名のなかに中学一年生の名が多数刻まれているのを見たときの心の痛みは、今もそのままよみがえります。非戦闘員でさえ死者十万という激戦で、昭和21年の沖縄の人口は21~25歳で女は男の4.8倍、26~30歳で3.4倍、31~40歳で2.5倍という極端なアンバランスになる悲惨さでした。

このような言語に絶する戦禍に苦しみ、その後はまた基地化によつて複雑な影響を受けながら、沖縄の人々は不思議なほど純朴と人懐っこさを持ち続けています。私たち講師団に対して那覇一流の料亭で5回も大宴会を開く歓迎ぶ

り、本土大学留学生の親たちがわざわざ半日航程の離島からも集まって数百人も参加した謝恩会、講習終了後に茶話会を開き講師に心のこもった記念品を贈る札儀正しさ、度々のPTAの講演で接した一般の親たちの素直な心は忘れられません。

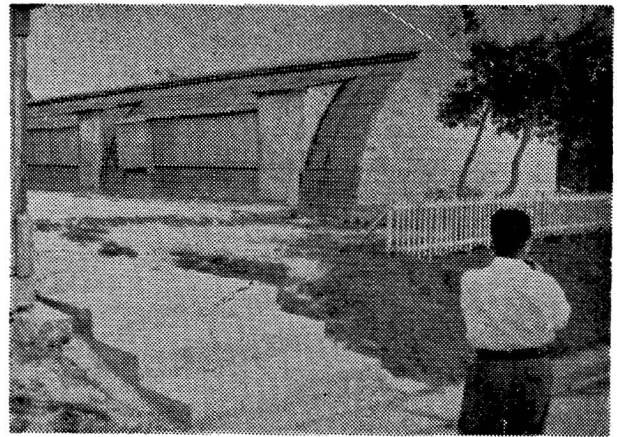
沖縄には何処へ行つても、丘のあるところには、その斜面に母体の腹をかたどつたといわれる亀甲型の大きい墓があります。そして一つの墓には50世帯以上もの一族の骨が先祖代々納められているそうです。元を一つにして生れ、死んで元に帰ることを象徴しているようなこの墓が、沖縄を理解する一つの鍵のように思われます。沖縄にはこれという産業がないのに、PTA講演会に集つた親たちのなかに「子どもはどうしても五人は欲しい」という声が多かつたこと、昔からの本土や海外へ移民した者が親もとへ送る金で赤字が埋められてきたこと、今も基地の赤線地帯で働く娘たちが親へ仕送りをよくすること、仏教が未だかつて根をおろしたことがないのに盂蘭盆が最も盛大な年中行事であることなどの理由が、この墓をみるとわかるように思われます。

九州の南端と沖縄本島の間には大小約30の島が飛石のように連なつていて、古くから小舟でも渡れたからか、沖縄の人と南九州の人はよく似ているようです。現在、日本で最も身長が低いのは鹿児島や宮崎の人ですが、沖縄の人と同じく身長が低いのです。また国語の歴史からみても沖縄の方言と大和言葉とはもとは一つだつたものが千五百年以前に分れたのだそうで、沖縄の古い歌謡は和歌の7.5調に一音づつ加えた8.6調になつています。おもしろいのは源為朝にまつわる伝説で、明治維新まで沖縄を支配した尚王朝も為朝の子孫だと伝えられ、現那覇市教育長の阿波根朝松氏から「沖縄で私の名のように朝の字がついている者は為朝の血統といわれる家の出身者で、みな誇りを感じている」とききました。

文化的に人種的にみて私たちと同民族の沖縄の人々が、その地理的条件のため明治維新まで島津藩と明、清国への両面外交に悩み、今また戦争で他のどこよりも大きい犠牲を払つていることは、実に同情にたえぬものがあります。

しかし、このような不幸にもかかわらず、また政治的に難しい状況であるものにもかかわらず、沖縄の人々はその教育基本法に「日本人の育成を教育の目的とす」と定めることに努力し、また沖縄のローカル性を無視してまで、日本本土の教科書を使用しています。沖縄の人が内地と呼ばないで本土というのも、日本への愛情と強い一体感から来ていることを汲みとるべきでしょう。

今では戦後のテント教室や茅ぶき教室こそ見られませんが大抵の学校にはまだかまぼこ型の教室がコンクリート校舎と並存しているし、内部の設備も粗末で、私が滞在中20ほどの学校を訪ねましたが応接用のスプリング入りの椅子の



蒲 鉦 型 校 舎

ある学校は一枚もありませんでした。沖縄文教協会の統計によると、児童1人当りの教育費は小学校で本土の56%中学校で64%にすぎません。教員には恩給制度もなく、病気になつても共済組合の保障制度もありません。

それでも中学から高校への進学率は47%の高さであり、琉球大学の在學生2,200名余、本土の大学への留学生7百名余というのは人口83万の沖縄としては高い教育熱だといつてよいでしょう。

「あらゆる面で本土と同じにしたい」という沖縄の願いを是非本土の人々に知ってもらいたいと、多くの人々から訴えられました。

この拙文が沖縄の人の心を少しでも伝えることができれば幸いです。

最後に、本学薬学部卒業生の大城盛昌、福子さん夫妻、山城興一郎君、大山村吉君などの厚い歓迎を受けたこと、また同君らから富山大学薬学部の卒業生なるが故に優遇されているとの喜びの声をきき得たこととお報せしたいと思います。

## 大学の目的達成のために図書館の改善に力をいたしてもらいたく

村上清造

1. 現在の社会に色々の仕事があり、そしてそれらの仕事の中には、社会の表面にあつて社会から重視されている仕事と、なくてはならない仕事であるが、表面に余りでない仕事とがあり、そしてそれらは互に助けあいつゝ社会を営んでいる。大学では、教官の仕事と事務の仕事とはその両面であるようである。

しかし、又一方に、生れでたあかつきには、大きく社会に功献できるのであるが—他の進歩した国々では既に重要視されている—進歩のおくれた社会にあるために、その發揮できる機能を發揮し得ないものがある。我国の図書館がその一つである。勿論大学図書館もその一つであるが、今その大学図書館について、現状はどうで、将来どうあれば、大学の目的達成に大きな功献ができるかを皆さん



に少しでも理解してもらいたく、筆をとることにした。

2. 欧米では、図書館はすでに、古い型から脱皮して、いわゆる近代図書館として、社会人の生活の中に、また学問技術の世界にいきいきと動いている。我国では、明治以前の文庫的な考えがそのままつづいている。大学図書館ではそれよりも悪く、図書館は、もぬけの殻的存在におかれている、よく利用される資料は大部分教官の室に持ちだされ、相互利用の道がとざされ勝である。これでは、図書館は、文庫的な存在でさえないのである。

明治19年10月、帝国大学図書館規則第一条には、「帝国大学図書館は学院及び分科大学の図書を貯蔵する所とす」とあり、明治30年6月、東京帝国大学附属図書館と改められたとき、次のように変つた。

第1条 東京帝国大学附属図書館は東京帝国大学所属図書の管理に関する事務を掌る

明治41年6月、勅令をもつて司書官及司書の制度が設けられ、「附属図書館における図書記録の整理、保存、閲覧に関する事務に従事す」とその職務内容が定められ、今日までそれがうけつがれてきている。

### 3. 明治以後の図書館界の動き—第1次革新期

明治初期から大正にかけて、欧米の図書館制度が移され公共図書館、大学図書館がつくられてきたが、機能的には近代図書館と名づけるには甚だ遠いものであつた。一例をあげると、図書の分類法、目録規則は、いくつかの流れはあつたが、各館殆んど独特の方法をとつていた為、図書館員の教育も効力をあげることができず、相互の利用、ならびに、一般の利用には甚だ不便極まるものであつた。

こゝにおいて、昭和の初め、青年図書館員聯盟なるものが、大阪に旗をあげ、図書館革新の声をあげた。かくて今日の全国に普及している「日本十進分類法」「日本目録規則」「日本件名標目表」が発表され、図書館合理化の第一歩をふみだした。一方間宮商店による図書館用品の規格化への働きかけも、図書館の発達に大きな功をなしたのである。(間宮商店の主人間宮不二雄氏は、青年図書館員聯盟の書記長でありよき後援者でもあつたのである)この運動こそ我が国の図書館の近代化に大きな功をなし、第一次革新期をつくり上げたのである。

### 4. 第2次革新期

戦后アメリカの勧告によつて、我国の図書館界は、第2次革新期を迎えるに至つた。即ち図書の整理態勢の充実から、奉仕活動へと大きな転換をとげようとしつゝある。公共図書館は、自動車文庫、貸出文庫、読書会及びグループを通じての読書普及運動、更に参考業務の充実による図書館利用の新しい方法をとりにいれ、真の民衆の図書館として伸びつゝある。学校図書館は、戦後の新しい法律により、全国的に普及され、青少年の読書の習慣の養成、並びに読書指導に新しい道をきりひらきつゝある。更に大学図書館は、「大学図書館改善要綱」をつくり、新たな活動に入ら

んとしているが、ながらくの悪い習慣と、新しい生誕への無理解のために、大部分は旧態然たる姿のままにおかれている。

### 5. 学術の研究と文献調査

学術の研究にあつては、先人の遺した記録の調査は大切な仕事である。そのため、どの大学、どの研究所でも図書館が大切にせられるのである。しかるに、我国の大学図書館は、文庫のままいやそれ以前の形をつづけ、図書館相互に利用の方法、図書館に収集されない資料の利用への努力に積極的でなかつた為、学者は、図書館員等の手を借りること少く、自らの手で必要な文献を探し求めてきた。又、自然科学方面、ことに化学、医学方面では、この欠陥に気づき早くから書誌活動—文献情報活動Documentationが早くから行われ、抄録誌、索引等がけいぞく刊行されてきた。しかしこれらの事業は、その過程に於てジクザクコースをたどり、又作成の方法に多くの欠陥をもち、かつ相互の関連性をもつことが少かつた為、文献探索には可成り困難をともなつた。学者は、これに対し、文献学的研究の余裕なく、思いつきや僅かの経験をもとりに文献調査をつづけてきた。従来は、発表される文献の量も少く、かつ書籍の種類も少なかつたので、問題とされることなく過ぎてきた。

### 6. 参考相談係(Referencer)とDocumentalistの発生

学術の急激な進歩の結果、文献の量はおびたゞしく増大し、かつ書籍の種類も多くなり、かつ学術相互の関係も連関性をたかめてくると、文献調査を従来の様な、思いつきや、経験だけでまかせておけなくなつてきた。即ち学者が文献探査のために費した多く時間と無駄な労力とを少しでも軽減し、学者をして、学術の研究に専念せしめることが必要かつ重要なこととなつて来た。

このような事が、今日図書館にReferencer(参考相談係)の必置の要求となり、一面、Documentation(文献情報活動と訳してよいか)の発達を促がし、Documentalistなる職業人も生まれるに至つた。これらの人々は、夫々の学問もやり、その上に図書館学や文献学をも学ぶ事が要求され、学術の世界に誕生しつゝある。これを薬学に例にとれば、薬学文献学者が図書館に必要な事になるのである。これら新職業人は、書誌の作成をやると共に、資料の収集整理、配布にも従事し、必要な時に、必要な資料を必要なところに送付するという従来の図書館活動に比して、非常に積極的な活動を行ううことになるのである。しかしこれの中には、新しい方法、新しい機械—文献探索機械—が採用されつゝある。

したがつて、Referencer, Documentalistは研究者にとつて文献探索上のよき助言者であり、かつよき協力者であると共に、学生に対する文献調査の指導者でもあるのである。

7. 文献情報センターの発生

このような動きが活発になつてくると、個々の図書館における書誌の作成には限界が生じ、書誌の作成及び配布、かつ文献調査を専門とする文献情報センターが発生してきた。これには、国立国会図書館のような国の中央機関が自ら実施したり、日本科学技術情報センターのような独立の機関の発生を促すことになつた。我国ではこれらの仕事は緒についたところといつてよいであろう。

8. 本学図書館の状態

以上のべてくると、本学図書館がどのような位置にあるか凡そ想像していただけると思う。次に本学図書館の状況竝に今後のあるべき姿についてのべることにする。

1. 本学図書館は、昭和24年大学が発足したとき、高等学校、師範学校、青年師範学校、高岡工専、富山薬専の各図書館が合併されてできたものである。しかし、各図書館は夫々異つた方式のもとに運営されていたので、それらを統一することから始められた。その内で一番厄介なのは分類と目録であつた。その当時の各図書館の様子を見ると

分 類	目録規則	目録の種類
高等学校 独 特	独 特	分類、目録 著者目録
師範学校 日本十進分類法(5版)	独 特	分類目録
青年師範 “	独 特	分類目録
工業専門 和日本十進分類法(5版) 洋独特(高商のもの)	日本目録 規 則	分類目録 著者目録
薬学専門 日本十進法(5版)	日本目録 規 則	分類目録 辞書体目録

の如く、各図書館とも異つた方法で行われていたので、先づその統一がはかられ、今日実施の如く、日本十進分類法、日本目録規則を採用することになり、かつ目録としては分類目録、辞書体目録がつくられるにいたつた。しかし旧蔵書を新しい方法にやりかえることは仲々の難事で、あとでも述べる如く、日常の仕事をやりうる人数しかない要員でこの変更を行うことは、無理な仕事で今日でも実施がすまらず、次の様な状態である。

現在は、閲覧目録として分類目録、辞書体目録を作成し一方逐次刊行書の目録を作成している。

高等学校の旧蔵書は元のまゝである	} 本館の分
工業専門の “ は元のまゝ	
師範 の “ は70%変更ずみ	
工学部 の “ は変更ずみ	

薬学部は、文科系の図書を除き90%変更ずみ、これの旧蔵書の整理のために、昭和32年からアルバイトを入れて、整理に着手、師範の分70%まで進行した。しかし、これらのアルバイトは素人であり、かつ司書は日常の仕事におわれ勝ちなので、今後の進行は一層むづかしくなるであろう。

8-2 日常の仕事

大学の研究費が増加することにしたがつて、図書の受入も増加し、受入整理に多くの人手を必要とする様になる。しかるに人手は定員にしばられて増加しない。全国の大学

は臨時職員で僅かに之れを補つている状態である。

〔全国の国立大学図書館調査〕

年 度	1954	1959	
図書館数	72	72	
職員 専門職	994(50)	1131(270)	
	611(172)	469(105)	
	1,605	1,600	.....0.99倍
非常勤	50	212	
	1,655	1,812	.....1.10倍
年間増加			
和 書	438,000	455,260	
洋 書	172,000	249,401 1,545	
	610,000	706,206	1.15倍

これを本学図書館でみると

年間増加	1954	1959	
本 館	4,796	6,794	1.4
薬 学	261	501	1.9
工 学	836	1152	1.37
	5,893	8447	1.40

すなわち、本学では、年間受入冊数は約40%増加している。職員数はそれに比べて、1名減となつている。更に短期大学によつて一年1000冊の受入の増加がある。逐次刊行物の受入整理を別にして、一人一年間の整理能力は約800冊を基準に考えると、工学部、本館は明かに労働過重に陥つている事になる。このため、旧蔵書の整理が困難となるだけでなく、図書館の積極的活動である奉仕活動は(参考相談を中心とした)夢にも行えない事になる。

9. 本学図書館の将来

現在本学図書館としては、旧専門学校時代の図書の整備大学初期の図書の整備、印刷目録刊行等の事業を速かに実施すると共に、少くとも、工学、理科(物理、地学、生物等)文学、美術、経済を中心とした社会科学、哲学、宗教、倫理教育、化学、薬学の各分科図書室に専門の Referencer をおき、本部に一般参考業務を行う Referencer をおくようにすることが大切である。この事は現在の状況から見て仲々困難なことであるだろうが、大学の研究を容易にするために大切な一つの要素である。

このためには、人員の増加と職員の質的向上をはからなければならぬ。即ち現職員の質的向上をはかると共に大学を卒業し、かつ図書館学を収得した人を Referencer に採用する事が必要である。

更に今一つの問題になることは、各教官の室に分散されている図書の相互利用の問題である。この点薬学部はよく相互利用が行われているが、他の学部では、真剣に考えてほしい。

大学当局におかれては、大学図書館の現状打開に積極的なられんことを切望してやまない。参考業務の詳細については、他日にゆづることとする。(35.1.11)

改正俸給表

行政職俸給表 (一)

職務の等級 号 俸	1 等級 俸給月額	2 等級 俸給月額	3 等級 俸給月額	4 等級 俸給月額	5 等級 俸給月額	6 等級 俸給月額	7 等級 俸給月額	8 等級 俸給月額
1	80,700 <sup>円</sup>	58,100 <sup>円</sup>	38,600 <sup>円</sup>	25,700 <sup>円</sup>	19,200 <sup>円</sup>	14,800 <sup>円</sup>	12,000 <sup>円</sup>	8,100 <sup>円</sup>
2	83,800	61,200	41,000	27,200	20,500	15,700	12,900	8,300
3	86,900	64,300	43,400	28,700	21,800	17,000	13,800	8,600
4	90,000	67,400	45,800	30,200	23,100	18,100	14,800	8,900
5	93,100	70,500	48,200	31,700	24,400	19,200	15,800	9,300
6	96,200	73,600	50,600	33,200	25,700	20,300	16,900	10,200
7	99,300	76,700	53,100	34,700	27,000	21,400	18,000	11,100
8	102,400	79,800	55,600	36,200	28,300	22,500	19,100	12,000
9	105,500	82,900	58,100	37,700	29,600	23,700	20,200	12,900
10		85,200	60,600	39,500	30,900	24,900	21,300	13,800
11		87,000	62,600	41,300	32,200	26,100	22,400	14,700
12		88,500	64,600	43,100	33,300	27,300	23,400	15,600
13		90,000	66,300	44,900	34,400	28,300	24,300	16,400
14			67,800	46,700	35,300	29,300	25,000	17,000
15				48,500	36,200	30,100	25,700	17,600
16				50,000	36,900	30,900	26,400	18,200
17				51,500	37,600	31,600	27,000	18,700
18				52,800		32,300	27,600	19,200
19				53,900				

備考 この表は、他の俸給表の適用を受けないすべての職員に適用する。ただし、第二十二條及び附則第3項に規定する職員を除く。

行政職俸給表 (二)

職務の等級 号 俸	1 等級 俸給月額	2 等級 俸給月額	3 等級 俸給月額	4 等級 俸給月額	5 等級 俸給月額
1	20,200 <sup>円</sup>	14,800 <sup>円</sup>	12,100 <sup>円</sup>	8,200 <sup>円</sup>	6,600 <sup>円</sup>
2	21,200	15,700	13,000	8,600	7,000
3	22,200	16,600	13,900	9,100	7,400
4	23,200	17,500	14,800	9,700	7,800
5	24,200	18,400	15,700	10,500	8,200
6	25,200	19,300	16,600	11,300	8,600
7	26,200	20,200	17,400	12,100	9,000
8	27,200	21,100	18,200	12,900	9,700
9	28,200	22,000	19,000	13,700	10,400
10	29,200	22,900	19,700	14,500	11,100
11	30,100	23,800	20,400	15,200	11,700
12	31,000	24,700	21,000	15,800	12,300
13	31,900	25,600	21,600	16,400	12,900
14	32,800	26,400	22,200	16,900	13,400
15	33,700	27,200	22,700	17,400	13,900
16	34,600	27,900	23,200	17,900	14,400
17	35,500	28,500	23,700	18,400	14,900
18	36,300	29,100	24,200	18,900	15,400
19	37,100	29,600	24,700	19,400	15,900
20	37,900	30,100	25,200	19,900	16,400
21	38,600	30,600	25,700	20,400	16,900
22	39,300	31,100	26,100	20,900	17,400
23	40,000	31,600	26,500	21,400	17,900
24	40,600	32,100	26,900	21,800	18,400
25	41,200	32,600	27,300	22,200	18,900
26	41,800	33,100	27,700	22,600	19,400
27	42,300	33,600	28,100	23,000	19,800

28	42,800	34,100	28,500	23,400	20,200
29	43,300	34,600	28,900	23,800	20,600
30				24,200	21,000
31					21,400
32					21,800
33					22,200

備考 この表は、機器の運転操作、庁舎の監視その他の庁務及びこれらに準ずる業務に従事する職員で人事院規則で定めるものに適用する。

教育職俸給表 (一)

職務の等級 号 俸	1 等級 俸給月額	2 等級 俸給月額	3 等級 俸給月額	4 等級 俸給月額	5 等級 俸給月額	6 等級 俸給月額
1	80,700 <sup>円</sup>	38,000 <sup>円</sup>	24,700 <sup>円</sup>	20,200 <sup>円</sup>	12,800 <sup>円</sup>	9,300 <sup>円</sup>
2	83,800	40,600	26,600	21,700	14,000	10,100
3	86,900	43,200	28,500	23,200	15,200	11,000
4	90,000	45,800	30,400	24,700	16,400	11,900
5	93,100	48,400	32,300	26,300	17,600	12,800
6	96,200	51,000	34,200	27,900	18,900	13,900
7	99,300	53,600	36,100	29,500	20,200	15,000
8	102,400	56,200	38,000	31,100	21,500	16,100
9	105,500	58,800	39,900	32,700	22,800	17,300
10		61,400	41,800	34,300	24,100	18,500
11		64,000	43,700	35,900	25,400	19,700
12		66,600	45,600	37,500	26,700	20,900
13		69,200	47,500	39,100	28,000	22,100
14		71,800	49,400	40,700	29,300	23,300
15		74,400	51,300	42,300	30,400	24,400
16		76,500	52,200	43,900	31,500	25,500
17		78,600	55,100	45,500	32,600	26,600
18		80,700	56,700	47,100	33,700	27,700

19	82,600	58,300	48,700	34,800	28,800
20	84,500	59,900	50,300	35,900	29,800
21	86,400	61,300	51,700	37,000	30,800
22	88,200	62,700	53,100	38,000	31,800
23	90,000	63,900	54,500	39,000	32,600
24		65,100	55,700	40,000	33,400
25			56,900	40,900	34,200
26			58,100	41,800	35,000
27			59,100	42,700	35,800
28			60,100	43,600	

備考 (一) この表は、大学及びこれに準ずるもので人事院の指定するものに勤務する学長、教授、助教授、講師、助手その他の教員で人事院規則で定めるものに適用する。

(二) この表の2等級の19号俸から23号俸までの号俸は、大学院を置く大学の教授で人事院規則で定めるものみに適用する。

教育職俸給表 (三)

職務の等級 号 俸	1 等 級 俸給月額	2 等 級 俸給月額	3 等 級 俸給月額
1	25,000	10,000	8,600
2	26,300	10,900	8,900
3	27,600	11,800	9,300
4	28,900	12,800	10,000
5	30,200	13,800	10,800
6	31,500	14,800	11,700
7	32,800	15,800	12,700
8	34,100	16,900	13,700
9	35,400	18,000	14,700
10	37,100	19,100	15,700
11	38,800	20,200	16,700
12	40,500	21,400	17,700
13	42,200	22,600	18,700
14	43,900	23,800	19,700
15	45,600	25,000	20,700
16	47,300	26,200	21,700
17	49,000	27,400	22,700
18	50,700	28,600	23,500
19	52,400	29,800	24,300
20	53,700	31,000	25,100
21	55,000	32,200	25,800
22	56,300	33,400	26,500
23	57,400	34,600	27,200
24	58,500	35,800	27,800
25	59,600	37,000	28,400
26	60,500	38,200	
27	61,400	39,400	
28		40,600	
29		41,800	
30		43,000	
31		44,100	
32		45,200	
33		46,300	
34		47,200	
35		48,100	

36	49,000
37	49,800
38	50,600

備考 この表は、中学校、小学校、幼稚園及びこれらに準ずるもので人事院の指定するものに勤務する校長、園長、養護教諭、助教諭その他の職員で人事院規則で定めるものに適用する。

医療職俸給表 (三)

職務の等級 号 俸	1 等 級 俸給月額	2 等 級 俸給月額	3 等 級 俸給月額	4 等 級 俸給月額
1	22,800	16,800	11,300	8,600
2	24,100	18,000	12,100	9,200
3	25,400	19,200	13,000	9,800
4	26,700	20,400	13,900	10,500
5	28,000	21,600	14,800	11,300
6	29,300	22,800	15,800	12,100
7	30,600	24,000	16,800	12,900
8	31,900	25,200	17,800	13,800
9	33,200	26,400	18,800	14,700
10	34,500	27,600	19,800	15,600
11	35,800	28,800	20,800	16,500
12	37,100	30,000	21,800	17,200
13	38,400	31,000	22,600	17,900
14	39,700	32,000	23,400	18,500
15	40,800	32,800	24,100	19,100
16	41,900	33,600	24,800	19,600
17	43,000	34,300	25,400	20,100
18	43,900	35,000	26,000	20,600
19	44,800	35,700		21,100
20	45,700	36,400		
21	46,400	37,100		
22	47,100	37,800		
23	47,800	38,400		
24	48,500	39,000		

備考 この表は、病院、療養所、診療所等に勤務する保健婦、助産婦、看護婦、準看護婦その他の職員で人事院規則で定めるものに適用する。

追 録

次に掲げる事件は本学報〆切の直前に起り、一まず一月下旬に及ぶものである。従つてこの一篇は一月一日付の本学報の特別追録というべきものである。昭和36年の門出にかかる不詳事を迎えたことは、まことに遺憾なことであるが、この犠牲を貴い戒めとして、新しい年を無事故で、平和で、然かも躍進、登攀の年としておくり、これ等6人の霊に報ゆることゝしたいものである。

山岳部員六名赤谷山で遭難

終戦後来る年も来る年も暖冬といわれながら過ぎて来たのであるが、旧ろう29日あたりから降りだした雪は烈しい

時は一夜に70センチも積るといふ状態で、小やみもないまま3日まで続いた。積雪は平野部で1米数10センチ、ところによつて2米にも及ぶ終戦の年から15年振りの大雪となつた。これがため北陸、上越、信越の各線はダイヤを乱し列車の停屯100時間を越すという未曾有の混乱を生ぜしめた。

この大雪はまた本学に思わざる一大事を惹起せしめた。それは旧ろう25日剣岳赤谷尾根に向かつた工学部3年金森広昭君をリーダーとする12人の本学山岳部員のうち、経済学部3年井伊広則君等6人が赤谷山の山頂付近で消息を絶つという大学創設以来の事件である。

赤谷山は大窓小窓を経て、剣岳に尾根続きにつながる標高2285米の山であつて、早月川は源をここに発している。

かかる気象の一大異変があるとも知らないで一行12人は25日出発馬場島に着き、更にブナクラ谷出会にベースキャンプを設けた。そして26日から標高1,600米の地点に前進キャンプ設営にとりかかつた。28日は全員赤谷山頂をきわめてその状況を観測し、12人中前記井伊君等6人は雪洞内耐寒訓練のためそのまま山頂に居残り、他の6人は前進キャンプに戻つたのである。雪洞にこもつた6人は30日前進キャンプに戻る予定であつたが、その日になつても帰らないので、前進キャンプに待機していた前記分離下山組の6人のうち3人が救援を求めて下山、これを大学本部に知らせたのである。ときに一月元旦であつた。下山予定の30日は前日来降り出した雪がいよいよ大雪となつた日であり、山頂の猛吹雪は想像に余りがある。知らせを受けた大学では直ちに関係者の非常召集を行い、救援対策本部を設けて応急対策に乗り出した。そして即刻救援の第一陣(経、4、古田隆彦君ら4人)を派遣した。翌2日には第2陣を、3日には急報に接し列車不通のため70キロに余る雪道を踏破して駆けつけた林教授をリーダーとする第3陣4人を、そして4日には山岳部員(有沢体育教官引率)による第4陣を派遣した。併し何れも4日まで深雪と荒天のため何等の手がかりも得られなかつた。これより先上京の旅からようやく帰富した吉田知事は、自衛隊に捜索のためヘリコプターの出動を求めた。その結果5日正午頃大阪八尾第10航空隊所属の2機の五福グラウンドの飛来となつた。午後1時と3時の2回にわたつて各約1時間を費やして空中から捜査を行つたが、目標付近に2,3人の捜索隊らしい者を見つけただけで、めざす遭難者も雪洞らしいものも発見出来なかつたこの2機飛来のために前日の4日午後と5日の午前、五福地区勤務の男女事務員の全員が着陸に便ずるため雪の踏み均しのために出動協力した。この5日にこれとは別に北陸電力山岳部員の3人が第5陣として現場へ出動している。ところが一方同じくこの日丁度ヘリコプターの雪中探索の行われている頃の午後1時45分頃、第2救援隊の仲俣、平田の両OBに、28日遭難者と別れて前進キャンプへ下だつた金森、藤井の両君が加わつて約30分にわたつて

現場と思ほしい一帯を捜索の結果、雪洞の跟跡と思われるものの近くに雪に被われた2人の遺体と7つの遺品を発見した。併し一行はピッケルだけの軽装備であり、雪も深く

それ以上の行動を許さぬ状態であつたために、遺体の発見だけにとどめ、所在を示す標識を残し、遺品だけを携えて引き返さざるを得なかつた。かく2人の死体確認から他の4人の死亡も動かすことの出来ない事実となつた以上、一まづ捜索を打ち切つて下山、休養、元気の回復と食糧、装備の補強をまつて再び行動することとなつた。そこでこれまで逐次出向、各キャンプに屯していた全員は、それぞれの拠点を引き掲げ馬場島に集合の上、10日全員下山、夕刻富山へ帰つた。そして午後1時から本部学生部長室に遺族や新聞記者、それに学生部長や関係学生部長の参集を求め連日の活動と、心労のため消すいの林山岳部長からこれまでの捜索の経過についての報告を行つた。報告のあと林山岳部長より危惧の念をもちながら、注意のみでなく進んで、これをおしとどめるまでの勇気のなかつたことについての切々たるお詫びのことばがあつた。このあと林部長を中心に学生部長や関係学部長などが今後の対策について協議の結果、3月の雪解けを待たず、林教授を隊長に有沢、石黒の2体育教官、OB3人、それに佐伯文蔵氏らのガイド15人計21人で、第2回の捜索隊を編成14日出向、約10日間の予定で捜査と遺体収容に着手することとなつた。そして一行は14日朝上市で集合同日夕刻馬場島に着いた。かくてここを拠点にベースキャンプ設営や天候待ちに日を過した。20日天候の回復とともに行動を起し、佐伯富雄氏(第一回南極探検隊員)ら24人の隊員は雪をラッセルしながら頂上に達し、先に2遺体を発見した箇所を約3時間にわたつて捜査したが、新雪が覆いかぶさり、積雪は推定7米にも及び、先につけた標式も雪に埋れて、確認の2遺体はおろか、他の4人も発見するに至らず、空しくベースキャンプに引き返へした。翌21日は午前7時から林隊長ら19人が、ベースキャンプから山頂へ向つて捜索を開始した。ところがこのときなつて漸々山頂から40米離れ、10米ほど下つたところに3米平方位の縦穴雪洞のあとを掘り当てた。そしてこの中に井伊、角、関の諸君と誰か判別のつかない都合4人の遺骸を発見した。またそれから10米ほど離れたところで石井君の死体が発見された。これで5人となるが、もう一人はいろいろ手を尽して捜したがどうしても見付からず、これだけは断念他日の捜索に委かすのやむなきに至つた。一同は心を残して上記5体を寝袋に納め、吹雪が作りなした尾根の鋭角斜面を、危険を犯してベースキャンプに運び、ここに一まづ収容して馬場島へ引き掲げた。22日は天候待ちと休養に費やし、23日はやまぬ吹雪について早朝ベースキャンプの死体収容に向い、午後2時過ぎスノーボードで運び下ろした。かくて翌24日朝馬場島を出発、途中伊折、折戸の両部落通過の際は部落民あげての奉仕と、もてなしを受け上市稲村に着いた。ここで大学からさし向けた自動



車に遺体を収め、バス 2 台に捜索隊員が分乗して、午後 4 時 20 分頃大学正門に着いた。正門から黒田講堂に至る雪道には学長や職員、遺族とその縁者、学生それに新聞記者、放送局員など数百名が堵列してこれを迎えた。この他附近の人、通り合せの人々が正門付近の街道に幾重にも重なって迎えたため、交通整理の警官が出動するという混雑を呈した。この正門を出発する時の颯爽たる姿と余りにも変り果てた傷ましい遺体は黒田講堂に安置された。学長はこの遺体の一つ一つにユリ、カーネーションなどの花束を次々と献じた。堂を埋め尽した恩師、学友はこれを取りまき、一ときの黙禱と“雪山賛歌”の合唱を捧げた。折から暮色迫り、堂内の電灯漸々光りを増すうち、賛歌のメロデーは重く漂うて、哀愁一入切なるものがあつた。次いで林捜索隊長から声涙ともに下る悔みとお詫びの辞が述べられたが、ここに至つておえつの声がかこゝに起つた。これに対し遺族を代表して関清則君の父君清三氏が、捜索と、収容に活動した人々に対する感謝と、関係方面にかけた心配と、そして世間を騒がしたことに対するお詫びのことばがあつて、いよいよ遺族への遺体引き渡しが行われた。

なお雪洞内で発見された判別の出来なかつた遺体は、中道君であつた。あと先になつたが、遭難者の氏名、所属、親元を次のとおり記して置く。

井伊 弘 則	経済, 3 年	新湊市
関 清 則	工学, 3 年	〃
中道 紘 臣	工学, 2 年	金沢市
鶴居 宣 一	薬学, 3 年	福野町 (未発見)
角 泰 彦	文理, 2 年	黒部市
石井 俊 一	薬学, 3 年	神戸市

次の一文は 1 月 24 日地方新聞に発表されたものである。新聞記事の再録はどうかと思われたが、この事件の意味するものをいろいろの立場と角度からながめ、つきつめ、反省し、批判し、或は叱り、或は同情した、恩威かね備えたこの一文が、新聞とともに消え去ることが惜まれたので、特に願つて再録したものである。

## 山の遭難と学生

＝精神の甘さとひ弱さ＝

学生部長 大 島 文 雄

こんどの富山大学山岳部の赤谷山遭難事件については、まだ調査と検討と反省が十分に行われていないことなのでこの問題についてものを言う段階ではない。しかし、この事件を精神の問題として、率直に感想を述べてみたい。

山へのあこがれは、この世の最も美しきものへのあこがれである。それはただ感覚的な美しさだけでなく、精神的なものを含めた、崇高な美しさに対するあこがれである地上のさまざまな美しさを越えた、山の崇高美に強くあこがれるということは、精神的な志向としての意義を持ち、実感をもっている。

さらに、その美をきわめるために、からだをかけて山と取り組むところに情熱が注がれる。それは、ただ眺めて楽しむというようなまぬるい享来的なものではない。それは体力の限りをつくし、生命をかけてその美と取り組むのである。人間の可能性を突きつめるという実践の激しさに情熱がわきたち、そのような実践によつて最高の美的享受をしようとするのである。

このような実践は、美的体験としても、もつとも根元的な、もつとも純粋な、もつとも良心的な仕方である。そうしてそれは、単に美的享受のためのものではない。いかに生きるべきかという問題をかかかけて、それにぶつかつて行くのである。生命がけの実践、それは最も充実した、最も緊張した生き方を願うためである。そのために情熱がもえるのである。

山岳部の諸君の、山に対する情熱は、このような性質のものと考え。赤谷山へ行く前、私はその諸君と会つた。山岳部長から注意を与えてもらう機会である。彼らの面持ちにある輝きと引きしまり方に、私は美しいものを見た。心配は心にあつた。しかしうれしかつた。

しかし遭難の結果から見れば、これら若い人たちの心には、甘さがあつた。ひ弱さがあつた。また独りよがりな心持がなかつたと言えようか。登山、ことにきびしい冬山の登山については、天候をはじめとして、さまざまな条件について、科学的な、綿密な考慮がなされるべきは言うまでもない。そのような考慮は山登の実践上の大きな興味でもある。それをおろそかにしたとは考えられない。

しかし、考慮はあつたとしても経験が足りなかつたであろう。また考慮はあつたが、行動を制御する静かな勇氣に欠けたのかもしれない。私の想像的な見方からきめつけるのはすまないが、結局は、考慮よりも、意気とか情熱が先走つてしまつたのではなからうか。

ある人が、こんな考えを私にのべられた。その科学的な考慮の中に、社会の迷惑ということも加えられねばならぬ西洋人の科学的な考え方の中には、いつも社会ということがあると。それはもつともな見解として私は傾聴した。

そこまで考えれば、こんどのことは、いや山の遭難事件は一般に無謀のそしりをまぬがれぬことが多いと思われる現にこんどの事件について、私たちは、家族の人々の心痛を毎日のように目の前に見、大学の内外、世間の人々の非常な心配と迷惑に日々むかい合わねばならなかつた。

私は、彼らを責めてむち打つのにしのびない。むしろ私たち指導の立場にある者の反省のために言つている。そして世間一般の若い人々に対する忠告のために言つているつもりである。

科学的な考方、人間と生命を尊重する精神、しつかりした個人主義精神、また社会と個人との関係についての観念これらのものは、まだまだ、日本人がしつかり身につけることの出来ないものである。ことに、日本の青年は観念的

な理想に走り、意気や情熱にみずから甘えて独善的になる傾向は、十分に指摘できるものがある。そして強じん性がなくて、意外にひ弱くもろい。学生の政治運動にもこれらの傾向があらわれ、戦時中の特攻精神は、それが利用されたものだと言つてもいい。私たちは青年の情熱を無条件にたたえているわけにはいかないのである。

戦後、苦い人たちが人間の生命を粗末に考えすぎることが問題となつている。教養のひくい、また境遇の不幸な人たちが、生命をおろそかにし、わけもなく殺人をするという傾向である。

それを山岳部の遭難と比べるのはもとより酷でもあり、当を失してもいる。一方は虚無的で退廃的で無思慮である一方は高いものにあこがれ、美しく充実した生き方を求めて、その情熱を登山にたたきこんだ。志向という点では、正に両極端である。

しかしながら結果から見て、生命をおろそかにし、また意気や、パッションやムードで動いたということ、そういう見方ができるとすれば、精神の甘さとひ弱さに、両者一すじのつながりがないといえようか。

私は率直にこの考えを述べて、世の青年諸君の考慮に資したいのである。

発行者 富山大学庶務課  
印刷所 昭和36年3月20印刷  
印刷所 昭和印刷株式会社



